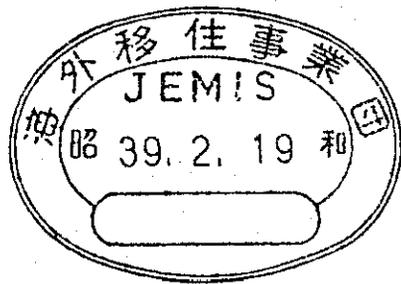


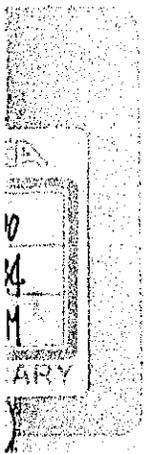
中南米各集團移住地現況

昭和 39 年 1 月



海外移住事業團

Handwritten signature or initials, possibly 'JEMIS' or similar, written in a cursive style.



国際協力事業団		
受入 月日	'84. 8. 10	600
		23.4
登録No.	02868	EM

中南米移住地現況

1964. 1. 20

ブラジル国

北伯	第二トメアス	1
	トメアス	3
	アカラー	5
	グアマ	7
	ロザリオ	9
	ムルアイ	11
	マタピー	13
	カンボベルジ	15
	モンテアレグレ	17
	ベラピスタ	19
	エフエゼニオサレス	21
	タイアーノ	23
	トレービ・デ・セテンプロ	25
	キナリー	27
中伯	ピオ12世	29
	ブナウ	31
	ピウン	33
	リオ・ポニート	35
	ウナ	37
	イツペラ	39
	クピチエツク	41
	フンヤール	43

南伯	ジャカレー	45
	サクラ	47
	グアタバラ	49
	ビニヤール	51
	クルバイ	53
	ドロードス	55
	オウリーニョス	57
	バルゼ・アレグレ	59

アルゼンティン国

	ガルアペー	61
	アンデス	63

パラグアイ国

	イグアス	65
	チヤベス	67
	フラム	69
	アルトパラナ	71

ボリビア国

	サンフアン	72
--	-------	----

ドミニカ国

	ダハボン	74
	コンスタンサ	76
	ハラバコア	78

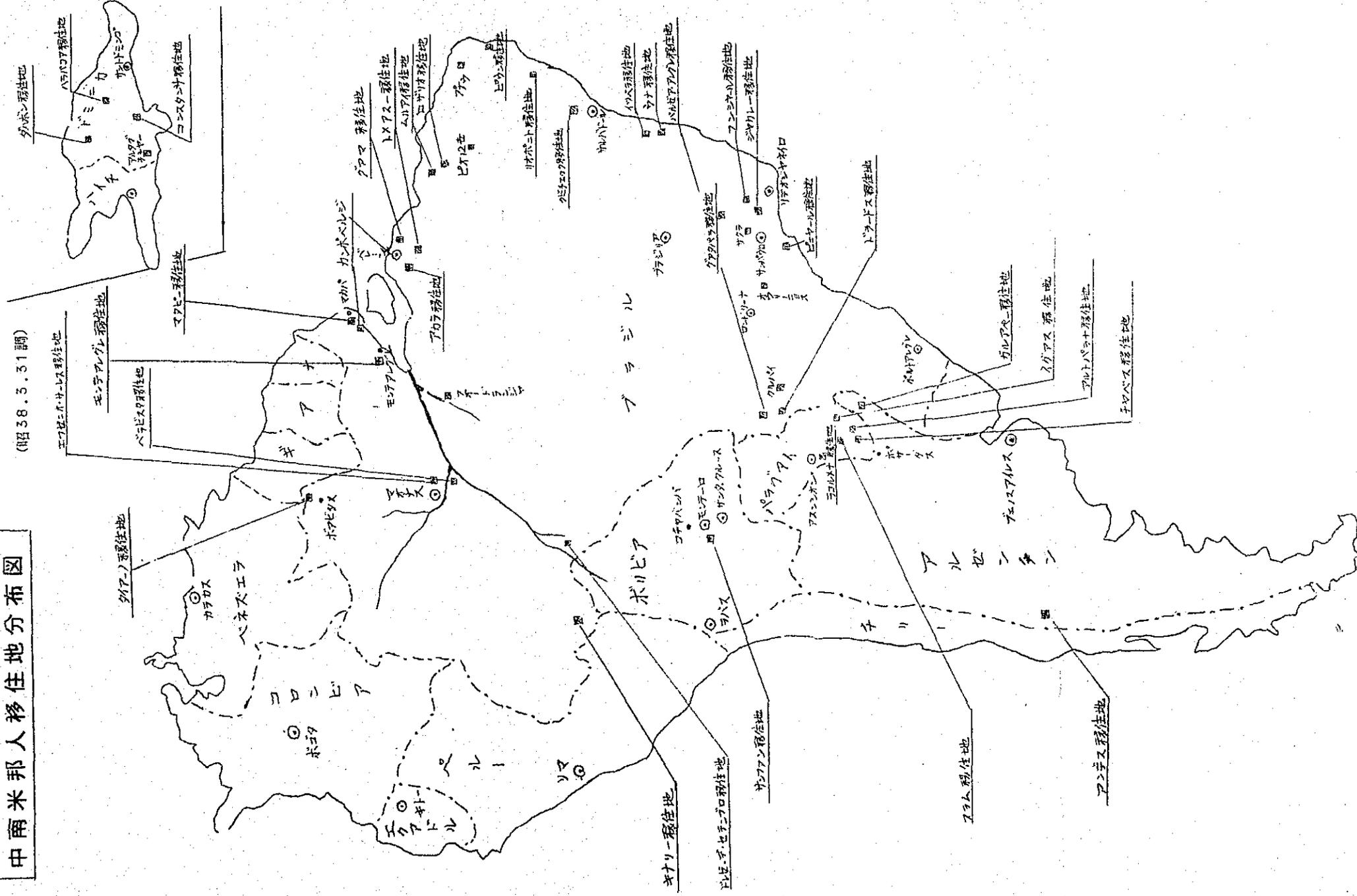
JICA LIBRARY



1019632[7]

中南米邦人移住地分布図

(昭38.5.31調)



北 伯

地 区 名	第 2 トメアスー
移 住 形 態	自 営 開 拓 農 (事 業 団)
受 入 世 話 機 関	事 業 団 ベ レ ン 支 部

1 地 区 概 要

自 然 的 条 件	位 置	ベレン市より 約 270Km (緯度 48° 50' W 1° 50' S)
	地 形	標高 11 ~ 30m (平均 20m) 概ね平坦地区内をアカラ河の支流クシュ川及びアカラ, ミリ川が横断している。
	地 質, 土 壤	沖積性砂壤土なるも奥地に行くに従い地味がよくなる。
	植 生, 林 相	熱帯性原生林に覆われ, アカプその他の有用材も若干混在している。
気 候	熱帯性の高温多湿型なるも (年平均 25.6), ベレン周辺よりは乾湿の変化が顕著である。雨期は 12 ~ 5 月, 乾期は 6 月 ~ 11 月	

社 会 的 条 件	交 通	本地区は, 第 1 トメアスー地区より南方 10Km の地点にあり, 地区より第 1 トメアスー基地港トメアスー波止場までは 23Km 位, 港よりベレン市までは水路 (アカラ河) で 270Km, 船合経営の定期船が就航している他, テコテコ橋が毎日ベレン ~ トメアス間を往復している。 外部への陸路はないが, 目下ブラジリア街迄までの 90Km 道路が計画されている。
	市 場	消費市場ベレン市人口 40 万, アマゾン流域最大の都市で行政, 文化, 商業の中心である。アマゾンの農産物輸出港で主な取引物はジュウタ, ビメンタ, ゴム, カスタニア, その他が出荷されている。短期作物は主としてベレン市を参照としているが, 永年作物ビメンタはベレン港を経て北米及びヨーロッパ, アルゼンチンに輸出されている。
	医療, 教育施設	診療所は植民地内にあり, 事業団嘱託医が駐在している。小学校が植民地内に 1 校ある。トメアスー町内に中学校がある。
そ の 他		

2 入植計画（状況）

入植戸数	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	計	定着戸数
												25		
総面積	25,800 Ha													
ロッテ面積	25 Ha													
土地価格	一括払 230,000円 分割払 291,000円													
支払条件	一括払は渡航前に日本国内において事業団に支払う。 分割払は頭金5万円を渡航前に日本国内において事業団に支払い残金は4年据置、3ヶ年平均等年賦払で伯国において事業団に支払う。													

3 営農計画

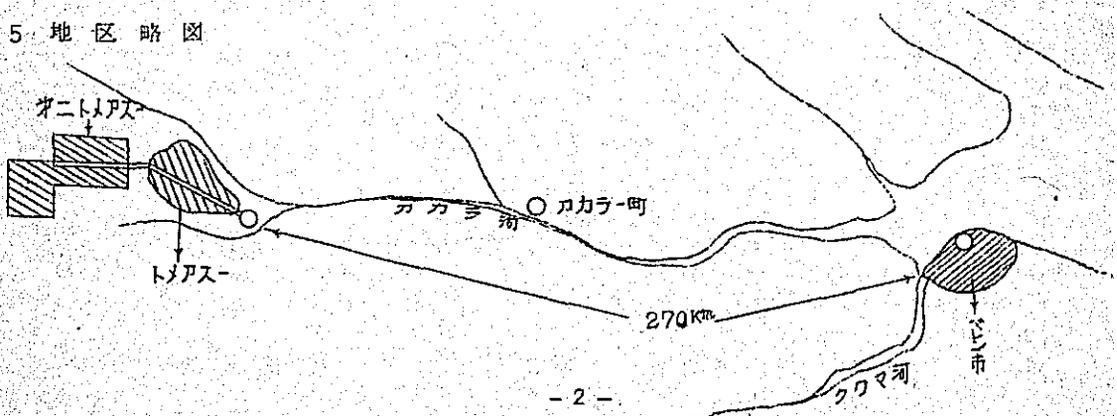
主作物	ビメンタの栽培を主とし、これに雑作を加味している。
営農のすめ方	ビメンター辺倒の経営方式は病害、販売価格の下落等の危険性があるので、多角経営方式に移行すべく、他の永年作物主に香料作物の研究がなされている。 価格下落の防止策としてビメンタのオイル抽出工場の誘致計画がなされている。

4 特記事項及び問題点

本植民地は、邦人の手によつてアマゾン地域の特産物までにした。ビメンタの栽培を主体として、その増産を目的として建設された植民地である。

営農の問題点としてビメンター辺倒方式を多角経営に移行するよう副作物の研究の必要、マラリア予防対策の指導

5 地区略図



地 区 名	トメアヌー
移 住 形 態	自営開拓農 (トメアヌー産業組合)
受入世話機関	事業団ベレン支部

1 地 区 概 要

自 然 的 条 件	位 置	第2トメアヌーと同じ
	地 形	
	地 質 , 土 壤	
	植 生 , 林 相	
	気 候	

社 会 経 済 的 条 件	交 通	第2トメアヌーと同じ
	市 場	
	医療 , 教育施設	植民地内に診療所があり, 日本人医師1名, 看護婦3名が診療に従事している。
	そ の 他	小学校3校, 中学校1校が植民地内にある。

2 入 植 計 画 (状 況)

入 植 戸 数	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	計	定着戸数
		29	77	71	6	6	6	6	30	31			261	
総 面 積														
ロ ッ テ 面 積														
土 地 価 格														
支 払 条 件														

3 営 農 計 画

主 作 物	
営農のすすめ方	第2トメアスーに同じ

4 特記事項及び問題点

昭和4年南米拓殖株式会社の植民地として発足、職前352家族の入植を見たが、営農上の失敗やマラリアのしょうけつ等により退耕者多く、89家族が定着、職後ビメンタの栽培に成功、飛躍的發展を見た。現在4,000屯を生産し北米、ヨーロッパ、アルゼンチンに輸出している。当植民地の雇用移住者は昭和28年度より受け入れられたが、一時親旧移住者の相克が生じ退耕者を出したが、現在は現地の営農並びに生活を学ぶ意味において、独立までの一期間雇用移住者として就労するものが多くなってきた。雇用移住者の問題点は、独立資金を就労賃金のみでは貯蓄することが困難であること、渡伯時日本より携行するか、融資の必要がある。

5 地 区 略 図

第2トメアスー地区図参照

地 区 名	ア カ ラ ー
移 住 形 態	自営開拓農（パラ州政府植民地）
受入世話機関	ベレン支部

1 地 区 概 要

自 然 的 条 件	位 置	ベレン市より水路120Kmの地点にあるアカラー町より北方22Kmの地点
	地 形	第三紀層段丘地域で平坦な段丘面と段丘をきざむ谷からなる地帯である。
	地 質 , 土 壤	地質は砂岩, 頁岩, 土壌はラテライト化土, PH=4.2で酸度強
	植 生 , 林 相	熱帯雨林で有用材, アカプー, カスタニア樹等巨木が密生する。
	気 候	年間平均気温 25.6℃ 関係湿度 85.3度 年間雨量 3,077.5mm 雨期 (1月~7月) 乾期 (8月~12月)

社 会 的 条 件	交 通	ベレン市よりアカラ郡町まで, 小型船 (40トント級) が往復している。 アカラ町より植民地までは郡道が通過しており, 事業団貸与のトラックが往復している。
	市 場	消費市場アカラ町は人口5千人程度なので, ベレン市を主たる消費市場としている。
	医 療 , 教 育 施 設	植民地内に小学校あり, 診療所はアカラ町にあるが, 医師は常駐におらず看護婦一名が駐在している。事業団嘱託医が巡回診療を年一回行なっている。
	そ の 他	

2 入植計画（状況）

入植戸数	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	計	定着戸数
								3	20		2		25	25
総面積	州有地の払下げを個人で受け、州政府としては未だ植民地として事務所は設置 にない。													
ロッテ面積	50 Ha													
土地価格														
支払条件														

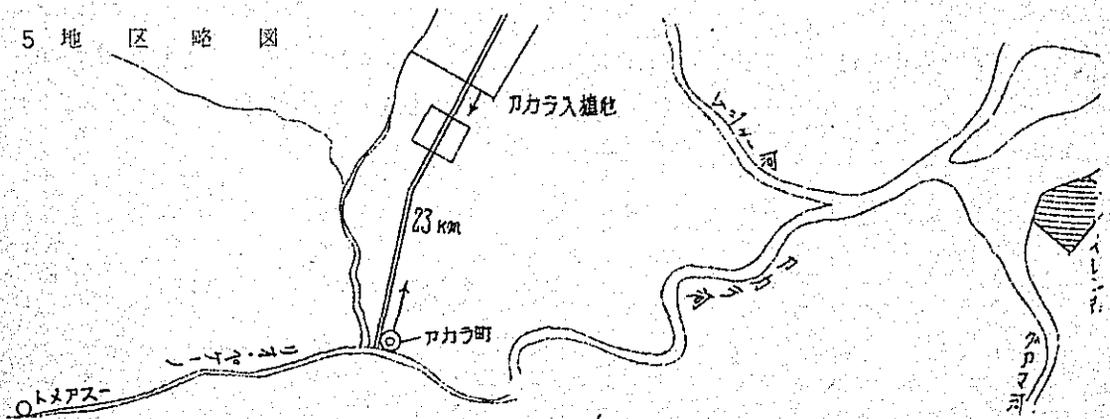
3 営農計画

主作物	永年作物ビメンタ、短期作物、養鶏、蔬菜、米
営農のすすめ方	ビメンタの好況に刺激され、ビメンター本の営農型態で進んできたが、これが 是正の必要があり、永年作としてタマルー果樹類、短期作として大豆養鶏を取 り入れつつある。

4 特記事項及び問題点

グワアベルナンブコの移住者が当地区の立地条件が悪く転出を希望し、一時ベレン近郊に土地を物色したが適地が無く、アカラ郡の好意と積極的導入により当郡内州有地を無償払下げを受け入植した。入植当初はグワマ植民地時代の遅れを取戻さんとビメンター本の営農で進んだため、資金的に窮乏状態に落ち入り事業側並びに伯銀の融資によりその難を切りぬけたが、ビメンタの収穫まで耐乏生活を続けなければならない。

5 地区略図



地区名	グアマ
移住形態	自営開拓農(聯邦植民地)
受入世話機関	ベレン支部

1 地区概要

自然的条件	位置	ベレン市より80Km(緯度2°30' S 48° W)
	地形	標高0~20m アマゾンの支流グアマ河左岸の低湿な氾濫原であるが、この特徴として、河と氾濫原との間に自然堤が出来ていることである。氾濫原の奥は比高数米の高台となっている。
	地質, 土壌	氾濫原の土壌はいわゆるアマゾンヴァルゼアの堆積の沖積土壌であるが、有機物は少ない。高台地の方は洪積層のテラフィルムで砂質の土壌である。
	植生, 林相	
気候		最高気温31.8℃ 最低平均22.2℃ 平均25.6℃ 雨期 1月~6月, 乾季 7月~12月, 年平均雨量2,186.0mm 湿度85~90%, 増水期12月より5月末まで。河水は干満の影響を受ける。平時3~3.5m

社会的条件	交通	ベレン市(人口約40万人)まで水路約48Kmで、陸路は約80Kmでベレン市に通じ事業団貸与のトラックが往復している。雨期には交通が不能となることもある。
	市場	(ベレン市)アマゾン流域最大の都市で行政、文化、商業の中心である(日本領事館あり)アマゾンの農産物輸出港で主な取引物はジュウタ、ビメンタ、ゴム、カスターニア、その他が出荷されている。昨年BR14国道が開通され南伯との経済的交流が盛んとなり、アマゾン地域の経済発展に重要な役割を占める都市となった。
	医療, 教育施設	植民地内に小学校3, ベレンには法科, 経済科, 工科, 農科等の総合大学がある。移住地内の医療所は看護夫のみにて医師は常駐していないが、事業団嘱託医が巡回診療を行っている。
	その他	

2 入植計画 (状況)

入植戸数	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	計	定着戸数
					31	97		1	1	1			131	46
総面積	33,510 Ha													
ロッテ面積	20 Ha													
土地価格														
支払条件														

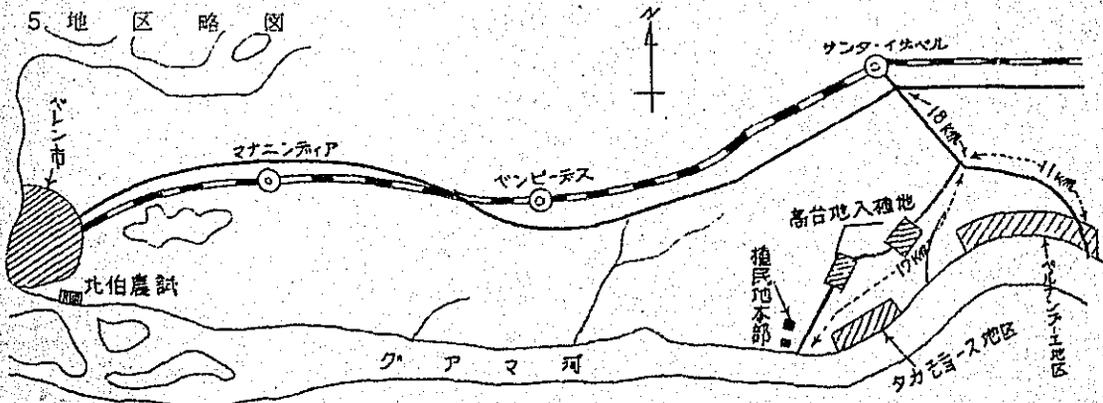
3 営農計画

主作物	短期作物, 米, 野菜, 永年作物, ビメンタ, コーヒー, カカオ, 果樹類
営農のすめ方	本植民地は築堤, 排水溝を設置し, 水稻栽培を計画していたが, 伯国側が経済的理由にてその工事を施工しなかつたため, 水稻栽培を野菜栽培に切替え甘藍の栽培に成功し, 蔬菜が主体作物となつた。現在は低地帯は生活上特に衛生面に於て遠地でないので台地にビメンタを作付し, ビメンタ栽培に移行しつつある。

4 特記事項及び問題点

本植民地はアマゾン河口地帯の海潮の干満差を利用し, 低湿地帯に水田を開発する計画で, 自然堤上に更に築堤し地区内に排水工事を施工することになっていたが, 伯国側の経済的理由で未だに工事が行なわれていない。そのため入植当初多数の退耕者を出した現在は移住者の努力により, 甘藍の栽培に成功しベレーン市場を当地区の甘藍で独占するまでになった。

5 地区略図



地区名	ロザリオ
移住形態	自営開拓地（マラニオン州政府植民地）
受入世話機関	ベレン支部

1 地区概要

自然的条件	位置	サンルイス市より90Km（緯度2°58'54.4°1'SW）
	地形	標高約8m，地区内一般に起伏ゆるやか平坦に近い。一部高地あり，地区東部はロザリオ市に至る道路が接し北，南部に沿って小川が流れている。この小川は乾燥にも渇水しない。
	地質，土壌	土壌は沖積層からなる填土（小石の多い）から微砂質のもので，アマゾン的一般的な土壌よりは肥沃である。
	植生，林相	一般にババースー椰子の疎林であつて，ババースー椰子のない処雑木類が自生している。
	気候	最高平均31.7℃，最低平均23.6℃，平均26.8℃ 年間雨量1,818mm，湿度80%前後，乾期5～10月，雨期11～4月

社会的条件	交通	サンルイス市（人口約16万人）地区よりBR25国道につながる8m幅の道路が植民地入口より8Kmの地点を通過しておりサンルイス・テレジーナ鉄道間の主要駅であるロザリオ市（人口約8千人）は植民地より1.5Kmの地点に在る。雨期には一部悪路となり自動車の往復に支障をきたす箇所がある。
	市場	サンルイス市はマラニオン州の首都で行政，文化，産業の中心である。ロザリオ市は郡役所，中学，病院等があり，加工場等には見るべきものがない。附近農産物の集散地である。
	医療，教育施設	植民地内に小学校あり，中学はロザリオ市に在る。診療所は植民地内にはないが，ロザリオ市の病院を利用している。年1回事業団嘱託医が巡回診療を行なっている。
	その他	

2 入植計画 (状況)

入植戸数	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	計	定着戸数
										19				
総面積	600 Ha													
ロッテ面積	30 Ha													
土地価格														
支払条件														

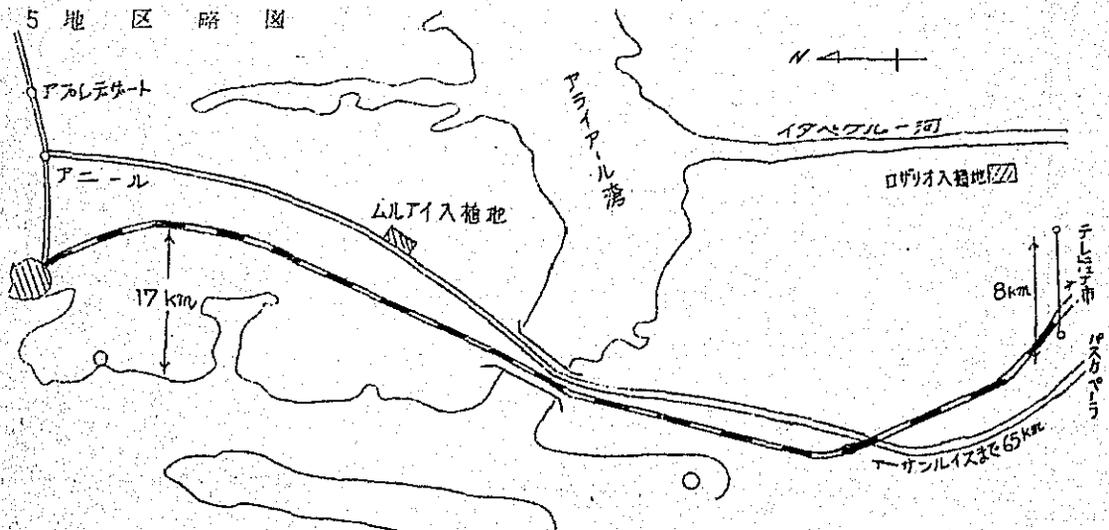
3 営農計画

主作物	短期作物, 米, 野菜, マンジョカ, 永年作物, ビメンタ, コーヒー, パパス椰子
営農のすすめ方	短期に於ける水源枯渇により, 蔬菜栽培が不可能であつたが, 低地に井戸を掘れば湧水を得られる場所もあることが判つたので, 蔬菜栽培による現金収入にて生活を安定させ逐次永年作物, 主にビメンタに切替える計画である。

4 特記事項及び問題点

本植民地の一部は乾期に於ける水源枯渇と高台地の砂利地が殆んど耕作不可能な地がある。このため一部移住者は転耕のやむなきに至り, 4家族エストラダノノ地区に転耕した。植民地入口の4家族の他は立地条件が悪く, 今後も数家族は転耕を考えなければならない。

5 地区略図



地 区 名	ム ル ア イ
移 住 形 態	自 営 開 拓 農 (マラニオン州政府植民地)
受 入 世 話 機 関	ベ レ ン 支 部

1 地 区 概 要

自 然 的 条 件	位 置	サンルイス市より30Km (緯度2°31'S 44°16'W)
	地 形	標高4m前後, 地区東北面は緩傾斜をなすが一般に地区内台地状の平坦地である。地区東, 北部を囲むムルアイ河は平常単なる低湿地で, その中に数本の細流がある程度のものである。
	地 質 , 土 壤	地質は第3紀層の砂岩, 頁岩よりなり, 礫交り砂土, 又は粘土で交通便利なため, 過去において焼畑利用されて放置されたもので, 土壌背薄である。
	植 生 , 林 相	再生林で, 現在は灌木林となっている。
	気 候	最高平均33.5℃, 最低平均21.5℃, 平均26.5℃, 乾期7月~12月 雨期1月~6月 年降雨量1,818mm

社 会 的 条 件	交 通	サンルイス市よりBR25号国道に続く整備された道路が植民地内を貫通している。
	市 場	サンルイス市は, マラニオン州の文化, 行政, 産業の中心地である。主な取引物は, 米, 玉蜀黍, 甘藷, 植物油脂。
	医 療 , 教 育 施 設	植民地内に小学校がないため, 事業団貸与のトラックで卵の出荷をかねて, 18Kmの地点にある, サンルイス市の小学校に通学している。 診療所も植民地にないので, サンルイス市の病院を利用している。年1回, 支部嘱託医が巡回診療を行なっている。
	そ の 他	

2 入植計画 (状況)

入植戸数	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	計	定着戸数
											10			10
総面積	200 Ha													
ロッテ面積	10 Ha													
土地価格														
支払条件														

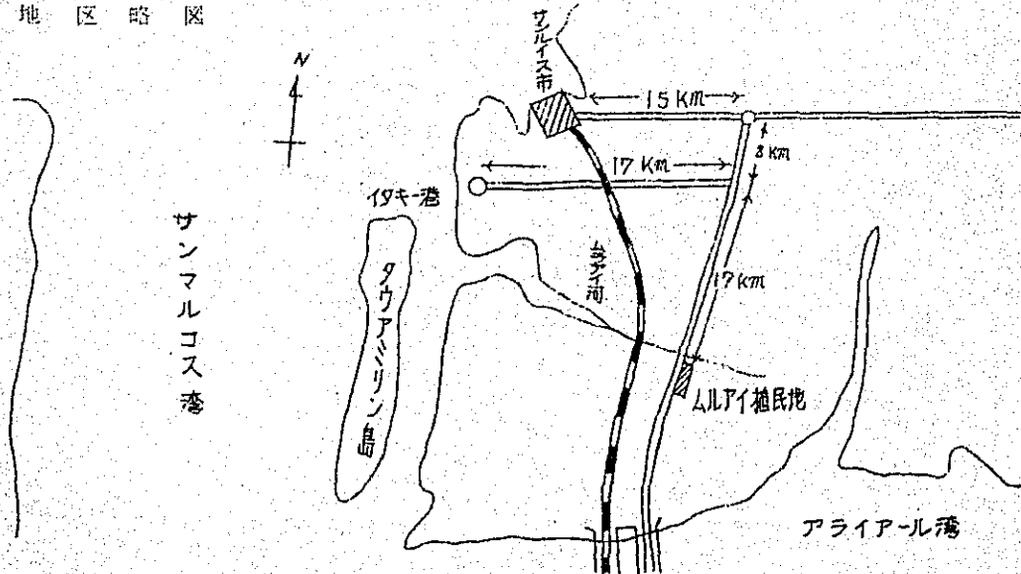
3 営農計画

主作物	養鶏を主体とし、蔬菜栽培を加味した、典型的な都市近郊農業の経営形態である。
営農のすすめ方	現在の早飼養鶏方式をバッテリー養鶏方式に切替える方向に進んでいる。永年作物は現在所有の1戸当り10Ha内には適地が少ないため、隣接地の土地取得を交渉している。

4 特記事項及び問題点

本植民地は立地条件よく、サンルイス市の卵の需要も増大しているので入植後満2年であるが、現金収入多く堅実な歩みを進めている。

5 地区略図



地区名	マタビー
移住形態	自営開拓地 (アマパー直轄州政府植民地)
受入世話機関	事業団 ベレン支部

1 地区概要

自然的条件	位置	マカパ町より127Km (緯度0°18' 51°02' W)
	地形	花崗岩や片麻岩その他の古期岩類の石礫からなる洪積世の石礫層の台地は極めて平坦、谷の部分にのぞむ所は急傾斜である。
	地質, 土壌	土壌は砂礫質のラテライト化土, PH = 4.2 テーラ・フィルメ地である。
	植生, 林相	草地帯から森林地帯へのうつりかわりの地帯の森林の中にある。
気候	年平均25℃~26℃, 関係湿度80以上, 雨期1月~8月で平均900mm, 乾期9月~12月で平均2mm以下。 年間降雨量 約3,000mm (2,610mm)	

社会的条件	交通	マカパ町より植民地入口まで平原であつて、各都市との連絡は比較的管理されているが、雨期には交通不能となることが多い。マカパ町より230Kmのセーラ・ナヴィウ鉱山までTCOMI 鉄道があり、本植民地はその中間に位置し交通至便である。ベレン~マカパ町までは船並びに航空機の便あり。
	市場	消費市場マカパ町人口約25,000人。マカパ市より230Kmの地点にセーラ・ナヴィウにマンガン鉱山があり、活気を呈している。主な取引物は鉱物資源(マンガン) ゴム, 生活必需品
	医療, 教育施設	マカパ町に内科, 外科, 産科の病院あり。
その他		

2 入植計画（状況）

入植戸数	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	計	定着戸数
		29	21			1	1		3				50	8
総面積	4875 Ha													
ロッテ面積	30Ha													
土地価格														
支払条件														

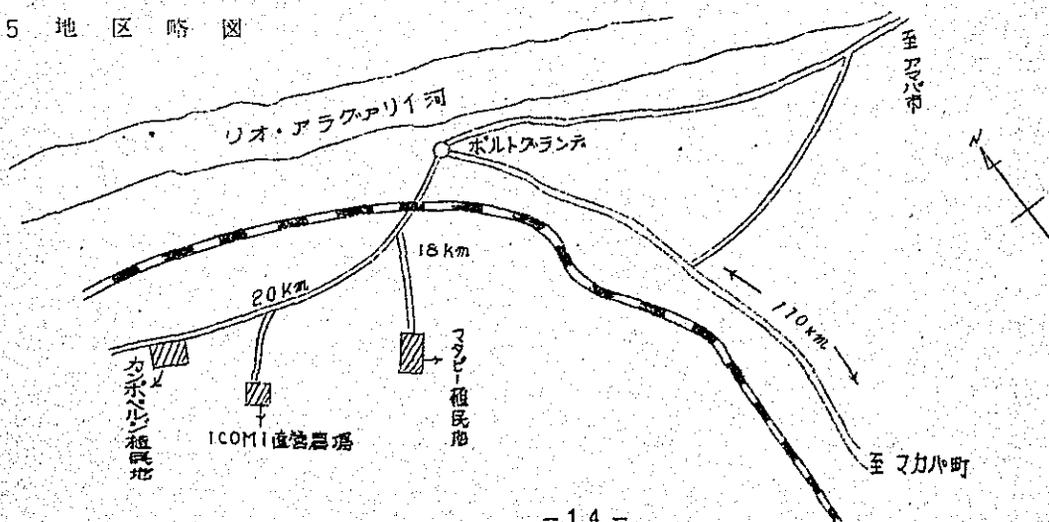
3 営農計画

主作物	永年作物, ゴム, ビメンタ, コーヒー, カカオ, 果樹類, 短期作物, マンジヨ カ野菜, 米
営農のすすめ方	入植当初はゴムを主体作物としていたが, 近年JCOMI 鉱山従業員の食糧需要の増大により野菜栽培, 養鶏に移行しつつあり, 永年作物としてはビメンタ栽培を主体としている。

4 特記事項及び問題点

本植民地は入植当初ゴム植付を強制され, 資金的に行きづまったため, 人の和を欠き多数の退耕者を出したが, 残留している者達は近年JCOMI 鉱山による食糧需要の増大により営農並びに生活も安定しつつある。

5 地区略図



地 区 名	カンボベルジ
移住形態	自営開拓農 (アマバー直轄州政府植民地)
受入世活機関	事業団 ベレン 支部

1 地区概要

自然的条件	位 置 形	マカバ町より130Km (緯度001'S 51°02'W)
	地質, 土壌	マタビー植民地に同じ
	植生, 林相	
	気 候	

社会的条件	交 通	
	市 場	マタビー植民地に同じ
	医療, 教育施設	
	そ の 他	

2 入 植 計 画 (状 況)

入 植 戸 数	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	計	定着戸数
											6	1	7	7
総 面 積														
ロ ッ テ 面 積														
土 地 価 格														
支 払 条 件														

3 営 農 計 画

主 作 物	永年作物としてビメンタ, 短期作物として養鶏, 野菜
営農のすすめ方	ICOMJ 鉾山の食料, 野菜の需要が多いため, 当面は米, 野菜栽培を主体としているが, 将来にそなえビメンタ, クマルー果樹類の栽培に移行する営農方針をとっている。

4 特記事項及び問題点

本植民地は昭和32年マサゴンに入植したが, 低湿地帯及び交通不便等の立地条件悪く昭和37年当入植地へ移転したもので, 再入植したため資金的に窮乏したため事業団より融資をうけ再建に努力している。

5 地 区 略 図

マタビー 植民地地図参照

地 区 名	モンテアグレ
移 住 形 態	自営開拓地（聯邦植民地）
受入世話機関	ベレン支部

1 地 区 概 要

自 然 的 条 件	位 置	パラ州モンテアグレ郡モンテアグレ町より38km（緯度S2°W54'）
	地 形	一般に起伏が多く、中に標高300mのイタジュリー山があり、2、3の小流曲流し、丘陵地の間に平原地がある。
	地質、土壌	地質は頁岩、石灰岩を母材とするテラ・ロンアで地味良 PE6~6.5
	植生、林相	モンテアグレ町附近は、第三紀層とデヴォン系との接触地帯に沿って半広葉から草地への漸移地帯がある。奥地に入るに従って、よく繁茂した森林が拡がっている。
	気 候	年間平均27.6℃、最高限36.3℃、最低18.5℃ 年降雨量2,032.3mm（1959年）雨期1月~6月、乾期7月~12月

社 会 的 条 件	交 通	ベレン~マナオス間商業用船及び飛行機の寄港地にモンテアグレはなつている。町より植民地までは事業団貸与のトラックが往復している。道路は植民地入口附近より悪路となり、雨期には交通不能となることがある。
	市 場	消費市場は、モンテアグレ町は人口1萬程度なので、マナオス市を主たる消費市場としている。
	医療、教育施設	取引物 とうもろこし類、ジュート、パラタゴム、畜産物、水産物 モンテアグレ町にあるSHSP病院を利用している。年1回、事業団支部嘱託医が巡回診療を行なっている。
	そ の 他	植民地内に邦人小学校2、モンテ町に州立並びに教会の小学校各1校がある。 支部管轄植民地で、ただ一つの法定農業協同組合である。

2 入植計画 (状況)

入植戸数	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	計	定着戸数
		23	43	59			1						125	36
(ベルテラより移転)														
総面積	360,000 Ha													
ロッテ面積	30 Ha													
土地価格														
支払条件														

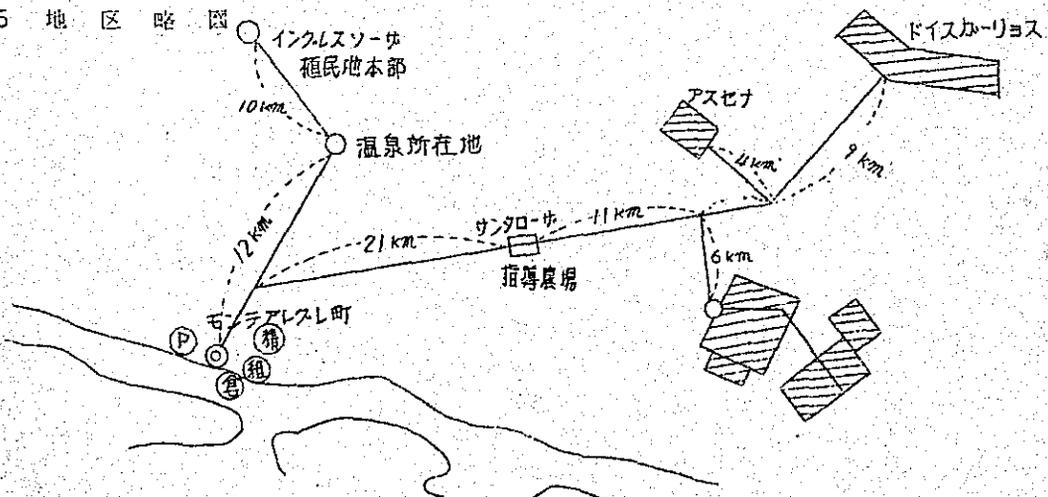
3 営農計画

主作物	永年作物 ゴム, コーヒー, カカオ, ビメンタ, 短期作 米, 玉蜀黍, シュート種子
営農の寸め方	地味肥沃なため, 米, 玉蜀黍, シュート種子等による短期作収入に対する依存度が高かつたため, 永年作の導入が遅れたが最近ビメンタ植付増殖を行っている。

4 特記事項及び問題点

本植民地の問題点は地元市場小さく、生産物の大部分はマナオス、又はベレンに出荷しなければならぬ。然るにアマゾンの水運は荷役費用が異常にかさむため、単価の安い短期作物では大成しがたいので、組合強化による生産物の合理的販売と永年作物の育成にある。他は道路の完備。

5 地区略図



地 区 名	ベ ラ ビ ス タ
移 住 形 態	自 宮 開 拓 農 (聯 邦 植 民 地)
受 入 世 話 機 関	事 業 団 ベ レ ン 支 部

1 地 区 概 要

自 然 的 条 件	位 置	マナオス市より植民地本部まで約100km (緯度S3°08' W60°0')
	地 形	第三紀段丘地域で平坦な段丘面と段丘をきざむ谷, 比高12~20m傾斜急, 地質は第三紀層の砂岩, 頁岩段丘をきざむ谷底の沖積層。
	地 質 , 土 壤	土壌はラテライト土, ラテライト土砂質, 崖端はテラ・プレートである。トH=4.2 テラファイルメ地帯である。
	植 生 , 林 相	直径1m以上の巨木が散在している。降雨林。
気 候	年間平均31.4℃, 最高限37.8℃, 最低平均22.7℃ 最低限12.6℃ 絶対湿度28.5° 相対湿度81.5 雨量 年平均2,100mm, 最高2,600mm, 1日最高降雨量120.2mm 雨期 12月~5月 乾期6月~11月	

社 会 的 条 件	交 通	植民地本部よりマナオスまで40哩 (小型船で6時間)。カカオベレイラよりアリアウ地区までは8m幅州道が通じており, 事業団貸与のトラックが往復している。
	市 場	消費市場マナオス市人口20萬。ボリビア, ベルー, コロンビア及びヴェネズエラ諸國への貿易が行なわれている。 主な取引物, 天然ゴム, ジュータ, 木材, 皮革, 植物性油脂。 飲物資源 (石油)
	医 療 , 教 育 施 設	植民地本部に診療所があるも, マナオスの診療所病院を利用している。事業団嘱託医が年一回巡回診療を行なっている。 小学校3 (ベラビスタ2, アリアウ1)
	そ の 他	

2 入植計画(状況)

入植戸数	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	計	定着戸数
		24	102						2		14		140	58
総面積	1,500 Ha													
ロッテ面積	30 Ha													
土地価格														
支払条件														

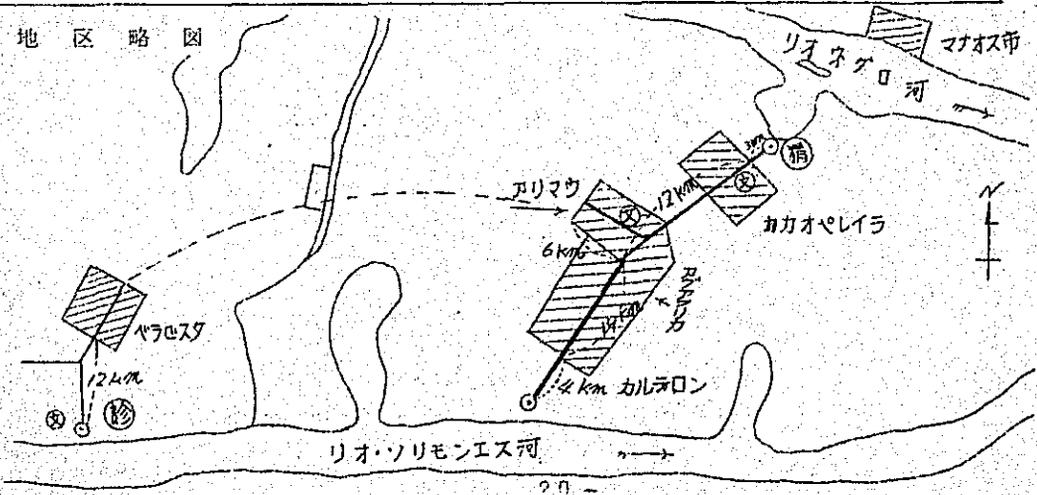
3 営農計画

主作物	永年作物ゴム、コーヒー、ビメンタ、果樹、ココヤシ、短期作物米、豆、マンジョカ、野菜類
営農のすめ方	<p>旧入植者は既に9～10年を経てその経営状況は既に安定している。特に経営型態は永年作(ゴム、カフェー、ガラナー、ビメンタ)が主作となり、之等が既に結果期に入つて居る。今後は作物の栽培技術の研究が必要である。</p> <p>新入植者(37年11月アリアウ地区入植14戸)は1～2年は米、野菜、マンジョカ等の短期作により自給食糧体勢を整えつつビメンタ植付3町歩完成を目標としている。</p>

4 特記事項及び問題点

旧入植者は過去の経験により営農並びに生活に自信をつけたので、今後は落着き拡大に向いつつある。新入植者は携行資金の少ない家族が約半数あり、営農資金を融資したが、渡航時の借金精算をしたため資金が少い。これがため旧入植者の処で日雇い人夫となり営農方法を学ぶと共に、生活費を労賃で得る方策がとられている。

5 地区略図



地区名	エフゼニオサーレス ✓
移住形態	自営開拓農 (アマゾン州政府植民地)
受入世話機関	ベレゾン支部

1 地区概要

自然的条件	位置	マナオス市より4.2km (緯度S3°1' W60°0')
	地形	一般に起伏多く,中には急傾斜地もある。テラ・フィルム地である。
	地質,土壌	地質は第三紀層中にあり,黄色の粘土質,低地は砂質粘土。
	植生,林相	カスターニヤ樹その他,直径1m以上の巨木が処々に点在している。
気候	年間平均 27.4℃,最高限36.3℃,最低20.5℃ 関係湿度 87度(4月) 年間降雨量 1,940.4mm 雨期1月~翌4月 乾期5月~10月	

社会的条件	交通	植民地内には, マナオス~イタコチアラ道路が通じており, アスファルト舗装である。 事業団貸与のトラックが往復している。
	市場	消費市場, マナオス市人口20萬, ポリビア, ベルー, コロンビア及び ヴェネズエラ諸国への貿易が行なわれている。 主な取引物 天然ゴム, ジュータ, 木材, 皮革, 植物性油脂, 鉱物資源 石油
	医療,教育施設	植民地内に診療所なく, マナオス市の州指定病院にて治療。 事業団嘱託医が年1回巡回診療を行なう。
	その他	小学校2 (植民地内)

2 入植計画 (状況)

入植戸数	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	計	定着戸数
							17	6	16	16			55	56
総面積	575 Ha													
ロッテ面積	25 Ha													
土地価格														
支払条件														

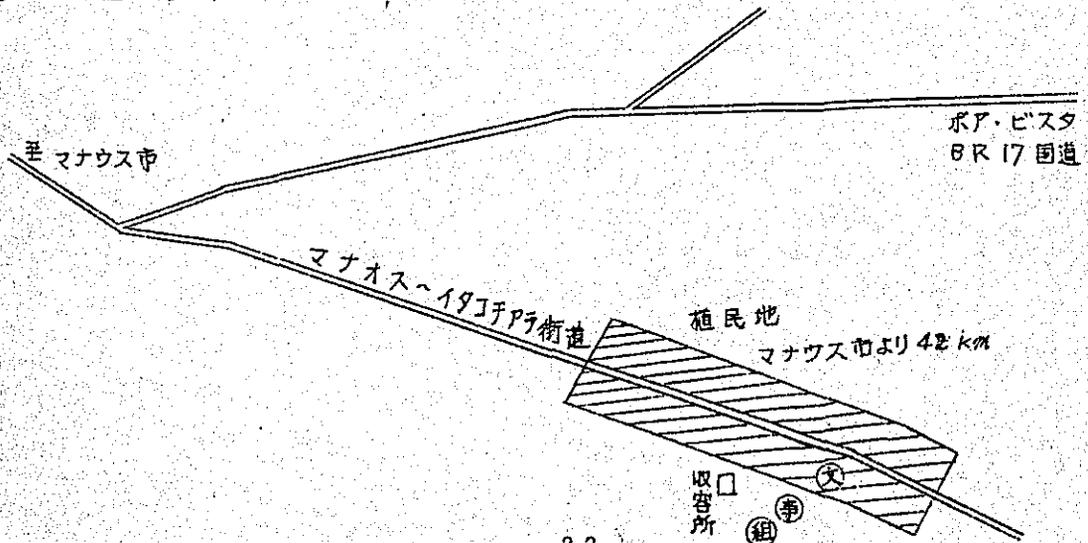
3 営農計画

主作物	永年作物 ゴム, ビメンタ, グワラナ, 果樹, 短期作物 野菜, 米, マンジョカ
営農のすすめ方	現在マナオス市へ供給する蔬菜栽培を主体とし, 永年作物としてビメンタ, グワラナ, 果樹類を増殖しつつあるが, 将来は永年作を主体とする方向へ進めつつある。

4 特記事項及び問題点

マナオス市20萬の消費都市に蔬菜を供給することにより, 一応の営農及び生活は安定しているが, 飲料水, 組合強化の問題に今後力を入れる必要がある。

5 地区略図



地区名	タイアーン
移住形態	自営開拓農(コライマン直轄州政府植民地)
受入世話機関	ベレン支部

1 地区概要

自然的条件	位置	ポアビスタ市より90Km (緯度N3°05' W60°40')
	地形	比高数10メートルの残丘地, 周囲は200~300の山地である。
	地質, 土質	地質は塩基性岩及び花崗岩の風化した赤色漂白土(粘土質)残丘頂部露岩 PH=5.4~7.0
	植生, 林相	中位の密林地帯である。サヴァンナ地帯の森島に展開する地域である。胸高直径2m程度の太木, 建築材, 家具材として重要されている。
気候	年間平均27.7℃, 最高限34.5, 最低平均24.5, 最低限28℃ 関係湿度78(7月) 雨量年間2,462.1mm(1958), 雨期4月~8月, 乾期9月~翌3月	

社会的条件	交通	本植民地の交通はポアビスタ市より90Km, 陸路とウラリクエラ川を利用した船便とであるが, 道路は雨期には不能となる。 マナオス~ポアビスタ間道路建設中
	市場	消費市場 リオプランコ州首府ポアビスタで人口1万人, ヴェネゼーラ, 英領ギアナとの辺境取引がある。ダイヤモンド(月産1,500カラット), 砂金, 畜産物食糧品が取引される。
	医療, 教育施設	地区中心部に公立小学校, 日本人小学校(日曜学校), 診療所(常務看護夫1)。 ポアビスタ市には病院, 中学校, 女学校, 師範学校, 発電所がある。
	その他	

2 入植計画 (状況)

入植戸数	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	計	定着戸数
				11						9			20	12
総面積	2,000 Ha													
ロッテ面積	34 Ha													
土地価格														
支払条件														

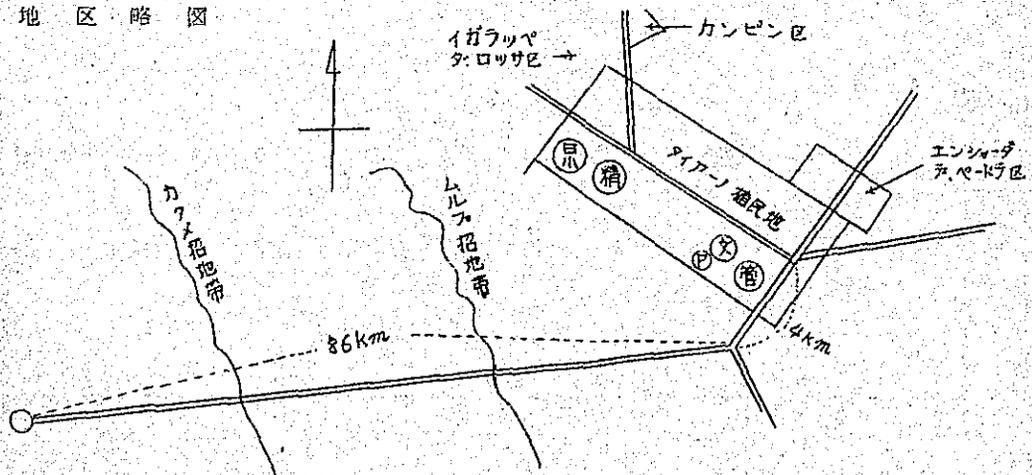
3 営農計画

主作物	永年作物 コーヒー、カカオ、ピメンタ、短期作 米、マンジョカ、玉蜀黍、豆、落花生
営農のすすめ方	本植民地は地味肥沃であるため、米、玉蜀黍、マンジョカ等の短期作物は無肥料栽培で7、8年収量が落ちぬため、自給体勢は出来るが、永年作物としての胡椒栽培が、耕地に傾斜地多く且つ乾期が長いため疑問があり、他に有利な永年作を研究中である。

4 特記事項及び問題点

本植民地の根本的な欠陥は市場の小さい事と交通不便（雨期の交通途絶）、乾期の長い事であり育成上困難な条件が多い。

5 地区略図



地区名	トレーゼセテンプロ
移住形態	自営開拓地(ロンドニア直轄州政府植民地)
受入世話機関	ベレーン支部

1 地区概要

自然的条件	位置	ポルトベリヨ市より9Km (緯度 S8°W63°)
	地形	第三紀層段丘地域で平坦な段丘をきざむ谷, 比高12~20m傾斜急である。
	地質, 土質	地質は第三紀層の砂岩, 頁岩, 段丘をきざむ谷底の沖積層, 土壌はラテライト化土PH=4.2 砂質土。崖端にテーラ, プレータ黄色土等である。テラ・フィルメ地帯。
	植生, 林相	熱帯性多雨林で30m程度の巨木の密生する原始林。 カスタニア, その他直径1m以上の巨木が密生している。
気候	年間平均25.6℃, 最高限38.3℃, 最低限15℃ 関係湿度 90度(1, 2, 3及び12月) 雨量 年間2,292.1mm(1958年), 雨期11月~翌4月, 乾期5月~10月	

社会的条件	交通	ポルトベリヨ市より植民地入口まで9Km, 邦人耕地まで1.1Km, 事業団貸与トラック1台が市と植民地を往復している。道路は他移住地に比較し良好, 昨年南伯に通ずるBR29国道が開通した。
	市場	消費市場, 州都ポルトベリヨ市, 人口約10,000, マナウス市(人口18万)までは航路約1,500Km, ゴム, カスタニアを集散し, アマゾナス州マナウス市と取引がある。
	医療, 教育施設	ポルトベリヨ市の病院を利用している。年1回事業団嘱託医が巡回診療を行つている。
その他	小学校移住者の共同作業にて建築したもの1校がある。	

2 入植計画（状況）

入植戸数	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	計	定着戸数
			29							2			31	20
総面積	1,750 Ha													
ロッテ面積	27 Ha													
土地価格														
支払条件														

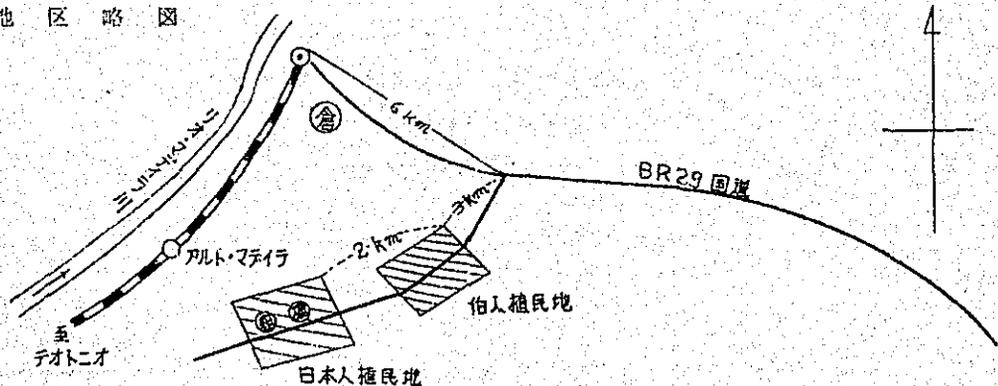
3 営農計画

主作物	永年作物 ゴム, コーヒー, ビメンタ, かんきつ, パナナ, 果樹一般 短期作物 米, 玉蜀黍, 豆, マンジョカ, マカセラ, 野菜
営農のすすめ方	蔬菜, 果物, 養鶏にて生計を立て, 胡椒栽培にて経営を安定させるべく胡椒の増殖を行なっている。

4 特記事項及び問題点

入植当初ゴム作付の規制を受け、而も致回の山火事により一時は貧窮の極にあつたが、3年前より、折から着工されたBR29国道建設工事によって同地方がにわか活況を呈して来たことと本植民地に対する蔬菜、果樹、鶏筆の需要の急増となつて現われ、植民地経済向上の気運となつた。現在はこれらを収入源として、胡椒の増殖を行なつており、胡椒の出荷市場もBR29国道による交通機関を利用し南伯市場を予定している。

5 地区略図



地区名	キナリー植民地
移住形態	自営開拓農（アクレ直轄州政府植民地）
受入世話機関	ベレーン支部

1 地区概要

自然的条件	位置	リオ・ブランコ市東方28Km（S9°00' W67°-00'）
	地形	極めて平坦な波状地，小川が数本地区内を通っている。 テラ・フィルメ地帯である。
	地質，土壌	地質は第三紀層，黄色の埴土，場所によりテラ・ロンア地帯あり。 地味肥沃，一般に酸性
	植生，林相	
	気候	年平均気温25.3℃，特殊気象（アンデス風の寒風が乾期に時々訪れる）あり，関係湿度 92度（5月），82度（9月） 雨量 年平均1,679mm，乾期5月～10月，雨期11月～翌4月。

社会的条件	交通	本植民地より，リオ・ブランコ市まで28Km，乾燥期の5月より12月までは比較的よいが，1月より4月までは雨期のため道路悪化，交通困難である。
	市場	消費市場 アクレ州首都リオ・ブランコ市，人口2万人で，雨期は200トン級の船が来航するが，乾期は減水のため小型船しか来航せず。
	医療，教育施設	植民地内に診療所なく，看護夫1人がキナリー村に駐頓している他は，年1回支部囑託医が巡回診療を行なっている。 植民地内に小学校があり，リオ・ブランコ市に中学校がある。
	その他	

2 入植計画（状況）

入植戸数	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	計	定着戸数
								13					13	9
総面積	1,500 Ha													
ロッテ面積	30 Ha													
土地価格														
支払条件														

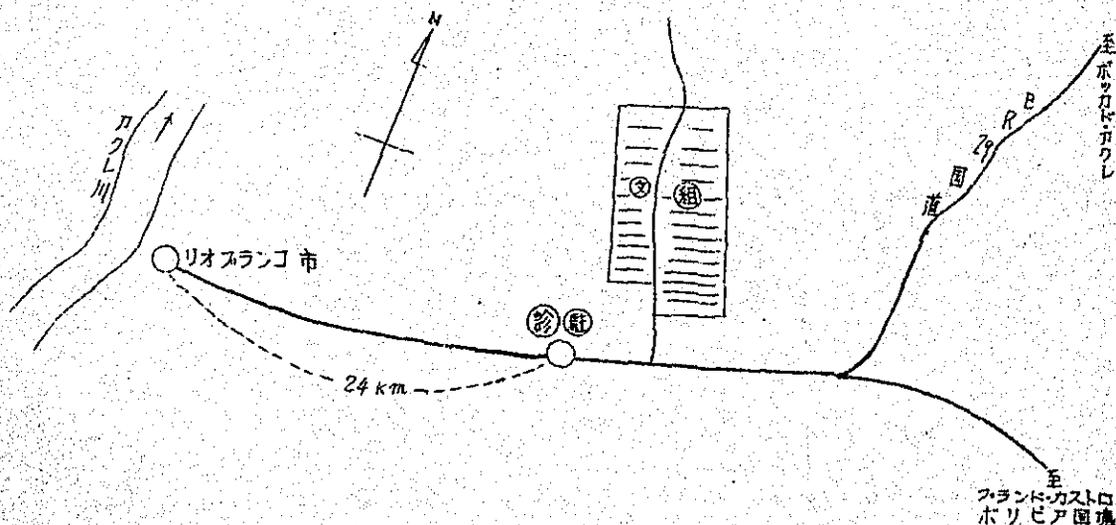
3 営農計画

主作物	ゴム, カフェー, カスタニア, 胡椒, 果樹類, 米, ミーリオ, 豆, マンジヨカ
営農のすすめ方	土地条件が良いため, 従来短期作中心の営農型態をとつて来たが, 毎年原始林を伐採することによる労働の問題, 耕地の有効利用の観点から永年作物の栽培に移行しつつある。

4 特記事項及び問題点

当移住地は他の移住地に比較して肥沃土であるため, 農業経営の問題よりも経済環境としての生産物の市場関係と交通輸送関係に問題がある。

5 地区略図



中 伯

地 区 名	ピオ12世 移住地
移 住 形 態	自営開拓農(連邦政府)
受入世話機関	レンシーフェ支部

1. 地区概要

自 然 的 条 件	位 置	S, 4° 10' W, 38° 48'
	地 形	標高30m~40mの高台地、緩傾斜地、低地よりなる大きな波状地形
	地 質、土 壤	花崗岩系の母材からなる 土又は砂 ^質 土
	植 生、林 相	既こん地550haの他 木林、貯水地、荒地が存在する。
	気 候	気温最高平均 29.3℃、最低平均 24.0℃ 雨量年平均 800~1,000mm 乾期 8~1月 雨期 2月~7月

社 会 的 条 件	交 通	(ガイウバ町)地区西方8Kmにあり、フォルタレーザ市よりバライバ世に 至る鉄道上にある。(フォルタレーザ市)セブラ世の世都地区北方 4.8Km、ガイラバ町まで鉄道約4.0Km
	市 場	フォルタレーザ市が専らの市場である。
	医療、教育施設	地区内に小学校があり、診療所は地区内にはない。 ガイラバ町には医者が居り、フォルタレーザ市には総合病院がある。
	そ の 他	移住地事務所、集会所、トラックがある。

2. 入植計画 (状況)

入植戸数	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	計	定着戸数
								8					8	5
総面積	1,390 ha													
ロッテ面積	25 ha													
土地価格	25万円 住宅 20万円													
支払条件	2年据置 10年々賦													

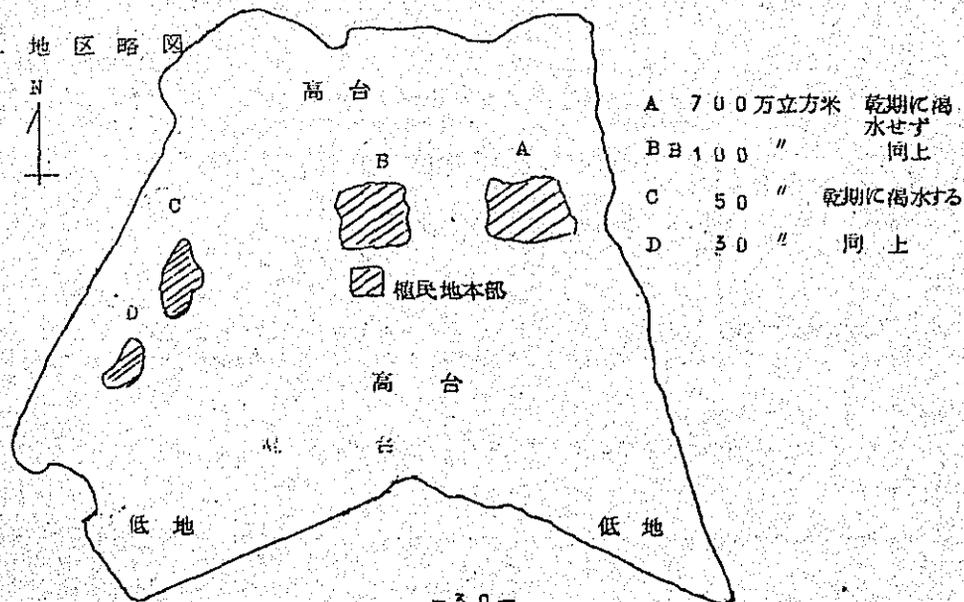
3. 営農計画

主作物	永年作物ビメンタ、ジュート、カシュー 短期作物メロン、スイカ、トマト、キャベツ
営農のすすめ方	地力増進のため有畜農等が必要である。都市供給果樹蔬菜を中心とし営農しながら、永年作物の植付を行う。

4. 特記事項及び問題点

地下水位が低く、塩分含有量が高く、飲料水に適しない。従つて飲料水の確保に努力を要する。

5. 地区略図



地区名	ブナウ移住地
移住形態	(州政府) 自営開拓農
受入世話機関	レシーフェ支部

1. 地区概要

自然的条件	位置	5° 30' 8 35° 40' W リオグランデ、ド、ノルテ州
	地形	地区中央部低地は西から東にフォンセカ河が流れ、地区北部は緩傾斜丘陵地となつている。 低地標高8 m 高地20~30 m 土層 3~5 m PH 5~5.5
	地質・土	低地は有機質にとみ、黒色沖積土で、高地は砂質土壌で肥沃ではない。
	植生・林相	低地は一般に草原でまばらに灌木が自生し根も浅い。 高地は、ココヤシ、マンガローバ、パアーヤ等が自生している。
気候	最高平均29.4 °C 最低平均20.6 °C 平均26.2 °C 乾期 9月~2月 雨期 3~8月で年間雨量は約1,500 mm	

社会的条件	交通	セブラミリン市人口 5千 地南南方45 Km ナタール市人口 約16万 地区南方86 Km 州都
	市場	ナタール市で本地区の最大市場
	医療・教育施設	診療所は地区内にないが、セブラミリン市、ナタール市には病院がある。 小学校が地区内にある。
その他		

2. 入植計画(状況)

入植戸数	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	計	定着戸数
								9	4					9
総面積	1,365 ha													
ロッテ面積	12 ha 低地 7.5 ha 高地 4.5 ha													
土地価格	130,000 クルセイロス 325,000 円 住宅 75,000 クルセイロス													
支払条件	2年据置き 8年々賦													

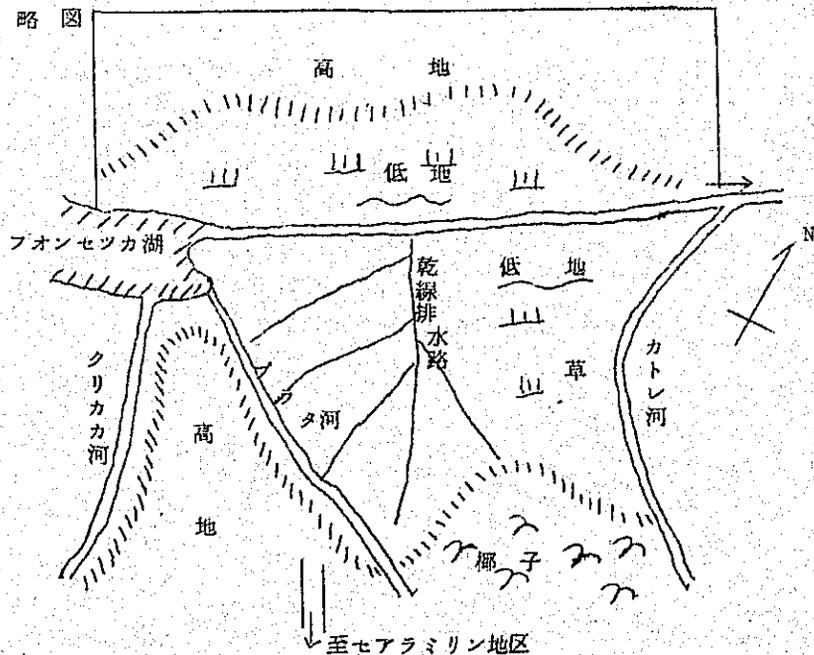
3. 営農計画

主作物	短期作物 米、蔬菜、豆類 永年作物 ココヤシ、パインアップル
営農のすすめ方	低地は12ヶ月間の同年生産を企画 第1に排水、次いで、排水位の酸性改良、化学肥料、特にP、Kの施用が望ましい。1世帯当り低地5町歩を米作にあて、これを営農の根幹とする。米以外には、中生期作物 永年作物のほか、鶏、豚も飼育する。

4. 特記事項及び問題点

昭和38年、脱耕問題で、一時混乱したが、現在は落着いている。
各戸の営農成績に大きな格差があるため、立遅れているものに対しては十分な資金援助を必要とする。管理機関が州政府から宗教団体に移行したことに問題がある

5. 地区略図



地区名	ピウン植民地
移住形態	(州政府) 自営開拓農
受入世話機関	レシーフェ支部

1. 地区概要

自 然 的 条 件	位 置	5° 55' S 35° 10' W
	地 形	標高20~50m 河岸の湿地帯とそれに連なる、緩傾斜高台地からなる。
	地質・土壌	低湿地は砂交り粘土の有機質の多い土壌、高台地は砂壤土
	植生・林相	湿地には蒲類、高台上は疎林、高台中腹はやや密を再生林となつている。
	気 候	最高平均30.2℃ 最低平均18.9℃ 平均26.7℃ 雨量 約1,500mm 湿度 71.5%

社 会 的 条 件	交 通	ナタール市、地区北方30Km 人口 16万 州都 パラナミリン市 地区北西 15Km
	市 場	ナタール市を対象とする。
	医療、教育施設	小学校がある。病院はナタール市
	そ の 他	地区内は共同井戸がある。住宅は高台に州政府の手によつて建設された。

2. 入植計画(状況)

入植戸数	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	計	定着戸数
						9								9
総面積														
ロッテ面積	25ha (正確には14ha) 家屋 63㎡													
土地価格	46,000クルゼイロス													
支払条件	4年据置 4ヶ年々賦													

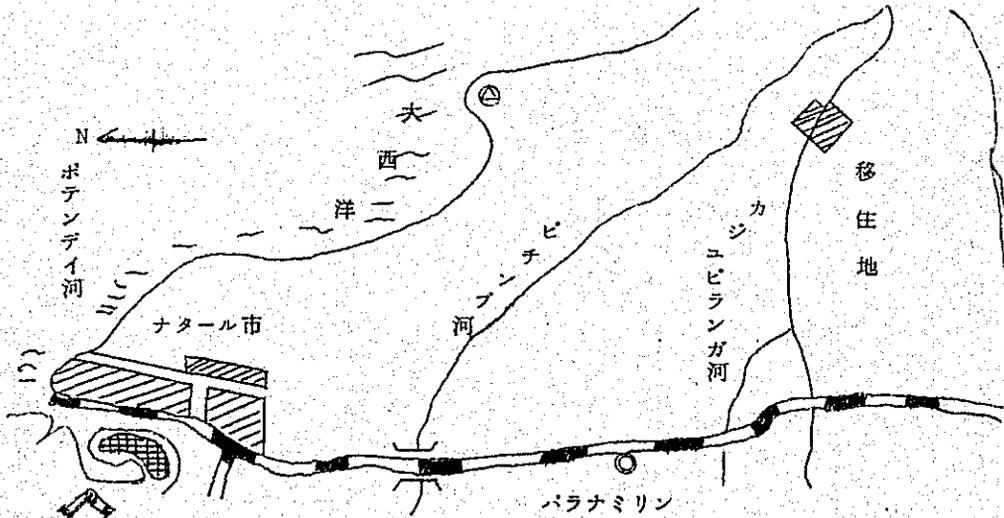
3. 営農計画

主作物	短期作物 米、蔬菜(特にメロン) 永年作物 バナナ
営農のすすめ方	低地帯においては米作、高台地の中腹には蔬菜メロン、バナナ等の栽培に利用される。

4. 特記事項及び問題点

32年3月連邦農務大臣は日本人入植者の努力に感激、10haの土地を寄贈した。
排水施設の完備が急務である。低地は雨期になると、水びたしとなる。
非常に優秀な農家ばかりなので、将来に明るい希望をもつて、営農している。

5. 地区略図



地区名	リオポニート植民地
移住形態	自営開拓農（州及び連邦政府）
受入世話機関	レシーフェ支部

1. 地区概要

自 然 的 条 件	位 置	8° 29' S. 35° 41' W
	地 形	標高 600～800m 全体として起伏の多い地形
	地質・土壌	土質は砂質壤土（高所）であるが谷間には植質砂土ないし壤土が拮つている。
	植生・林相	傾斜の多い森林部が多い。森林資源は豊富である。
	気 候	最高平均28℃ 最低平均18℃ 雨量780mm 流水の量は降雨量に比し湧水の関係もあり豊富である。

社 会 的 条 件	交 通	レシーフェ市より西方へ完全補装国道を100Kmフェゼロスより州道を30Kmでポニート市に達する。移住地よりポニート市までは7Km
	市 場	レシーフェ市を対象とし菜類の供給源とする。
	医療・教育施設	ポニート市に小中学校がある。又病院に診療所も完備している。地区内にも小学校がある。
	そ の 他	地区中心に事務所、倉庫、製粉所があり地区内道路もよい。

2. 入植計画(状況)

入植戸数	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	計	定着戸数
							5		9					
総面積	1,380ha													
ロッテ面積	25ha													
土地価格	75,000クルゼイロス 約15万円													
支払条件	2年据置 10年々賦													

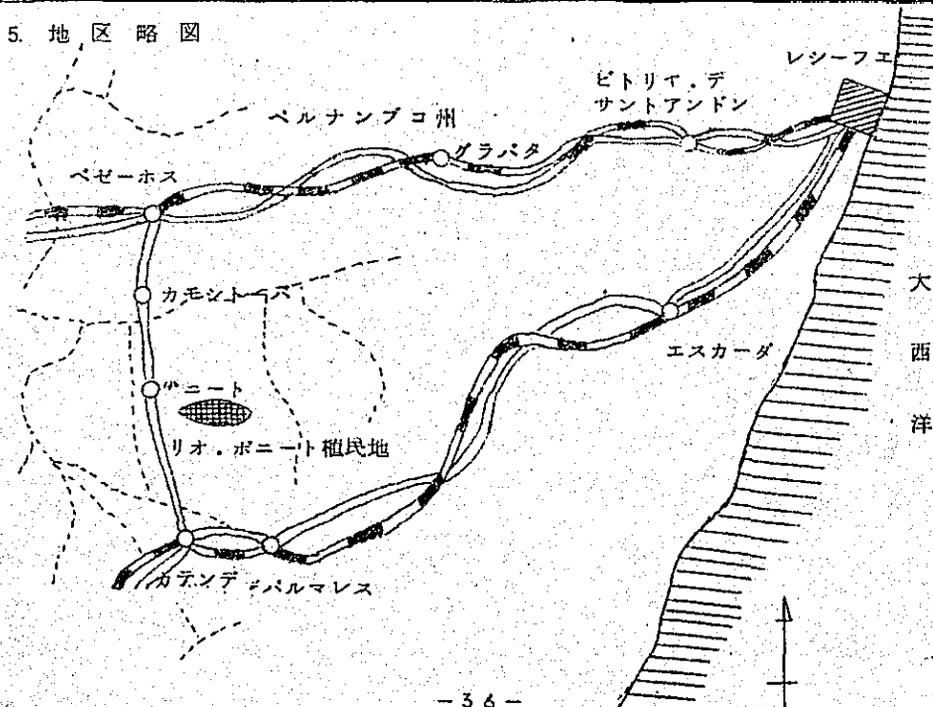
3. 営農計画

主作物	マンジョカ、バナナ、野菜、マラクジャ、柑橘、パイナップル
営農のすすめ方	蔬菜を組合わせてマラクジャ、西瓜が営農の中心となる。

4. 特記事項及び問題点

ポニート市より移住地までの道路が非常に悪く、出荷に支障を来している。

5. 地区略図



地区名	ウナ植民地
移住形態	(連邦政府) 自営開拓農
受入世話機関	レンシーフェ支部

1. 地区概要

自然的条件	位置	15° S 39° W
	地形	標高50~100m地区内小河川あり、河川流域は低湿地を形成している。河川を遠ざかるにしたがつい、稍急勾配をへて、高台地にいたる。
	地質・土壌	傾斜地、高台地は第3紀層の砂質又は壤質の土壌からなり、低地は有機質の多い土壌からなる
	植生・林相	海岸森林地帯に属し、地区周辺は森林である。 カカオその他高温湿下に生育する植物が繁茂している
	気候	最高平均29.4℃ 最低平均18.6℃ 年間雨量2,100mm

社会的条件	交通	地区内に小型飛行場あり 地区よりウナ町までは10Km ウナ町-イタブーナ市 120Km ウナ-イリエウス 150Km
	市場	イタブーナ市 イリエウス市
	医療・教育施設	学校、診療所、薬局がある
	その他	事業本部、教会、収容所、修理工場、発電所等がある。

2. 入植計画(状況)

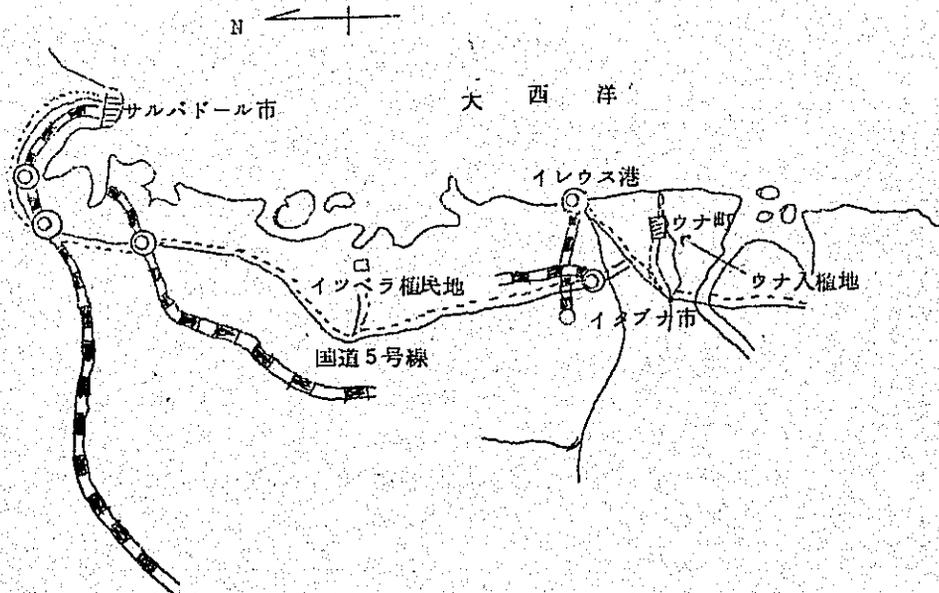
入植戸数	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	計	定着戸数
		25			11	1							36	19
総面積	5,494 ha													
ロッテ面積	30 ha													
土地価格	30~45コントス													
支払条件	3年据置 10年々賦													

3. 営農計画

主作物	永年作物 ゴム、カカオ、ビメンタ 短期作物 米、トウモロコシ、野菜、フエイジョン
営農のすすめ方	現在 1家族平均 3,000本のゴムを植付けている。

4. 特記事項及び問題点

ゴムの収穫期に入るまで、銀行融資にたよらなければならない
地積、境界線の問題を解決する要あり。



地区名	イツベラ植民地
移住形態	(州政府) 自営開拓農
受入世話機関	レシーフェ支部

1. 地区概要

自然条件	位置	13° 45' S 39° 15' W
	地形	標高160~230m 全体に起伏あり、水流に恵まれている
	地質・土壌	赤道熱帯性、ラテライト、鉄分の含有多く壤土ないし砂質壤土
	植生・林相	原生林、再生林あり、林相は相当厚く、有用材も含まれる。
	気候	最高平均27.8℃ 最低平均 20.2℃ 年間雨量 2,100mm

社会的条件	交通	イツベラ町(人口5千)まで10Km バレンサ(2万)まで52Km イツベラ町よりサルバドール市まで 130Km(海上)
	市場	サルバドール市、イツベラ町、バレンサ市が市場となる。
	医療、教育施設	イツベラ町に病院があり、厚生省の出張所もあるバレンサ市にも入院可能の病院あり。地区内には小学校がある。
	その他	地区内には電気が入り、燈用、動力用に使用されている。

2. 入植計画(状況)

入植戸数	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	計	定着戸数
						6								8
総面積	5,000ha													
ロッテ面積	20ha													
土地価格	10万クルセイロス													
支払条件	2年据置 10年々賦													

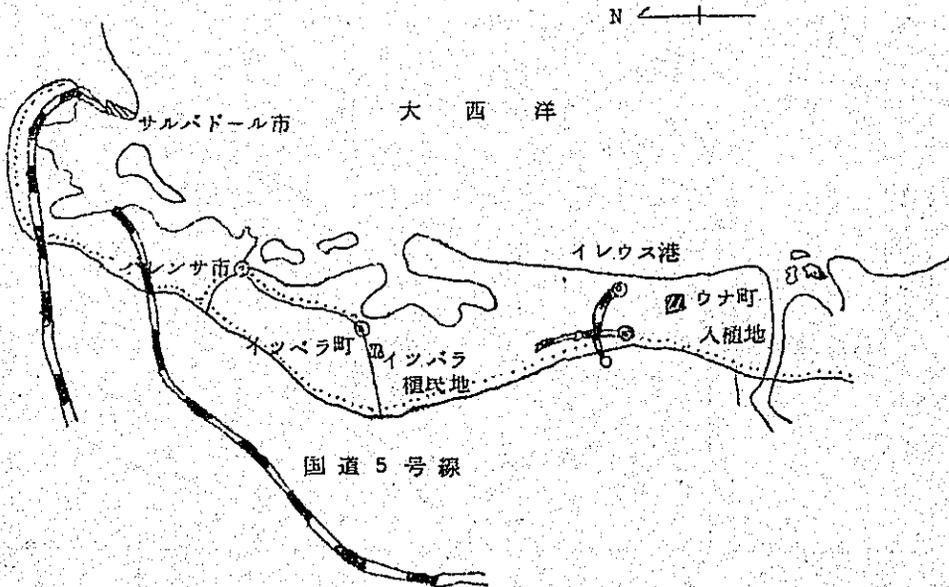
3. 営農計画

主作物	短期作物 マンジョカ、トマト、ピーマン、キャベツ、 永年作物 ゴム、油椰子、丁字、ラランジャ
営農のすすめ方	早期安定を考慮してなるべく早く永年作物を植栽する必要がある。

4. 特記事項及び問題点

現在継続して入植おつせん中

5. 地区略図



地区名	クビチエツク植民地
移住形態	自営開拓農(世政府)
受入世話機関	レシーフエ支部

1. 地区概要

自 然 的 条 件	位 置	12° 40' S 38° 30' W
	地 形	標高は最も高い所で100m 全体にある程度起伏のある丘陵地
	地質・土壌	全般に砂質壤土でマサツペ(水成岩の風化土壌でテラロシヤに次いで肥沃であり、腐殖にも富んでいる)のところが相当ある。
	植生・林相	林相は厚く、再生雑木林
気 候	最高平均 28.3℃ 最低平均 22.2℃ 雨量 1,800mm	

社 会 的 条 件	交 通	マタ、デ・サンジョアン市まで6Km サルバドール～マタ、デ・サンジョアン間は鉄道連絡がある サルバドール市～バイア州々都人口約70万 移住地より約80Km
	市 場	サルバドール市が主な市場となる。
	医療・教育施設	地区内に診療所兼病院、小学校がある。
そ の 他		

2. 入植計画(状況)

入植戸数	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	計	定着戸数
							5	49	25	30	5 (ドミニカ)		114	
総面積	2,600ha													
ロッテ面積	イタビシリカ地区 25ha サンベトロ地区 20ha													
土地価格	150~200コントス 30~40万円 住宅 60㎡ 20万円													
支払条件	2年据置 10年々賦													

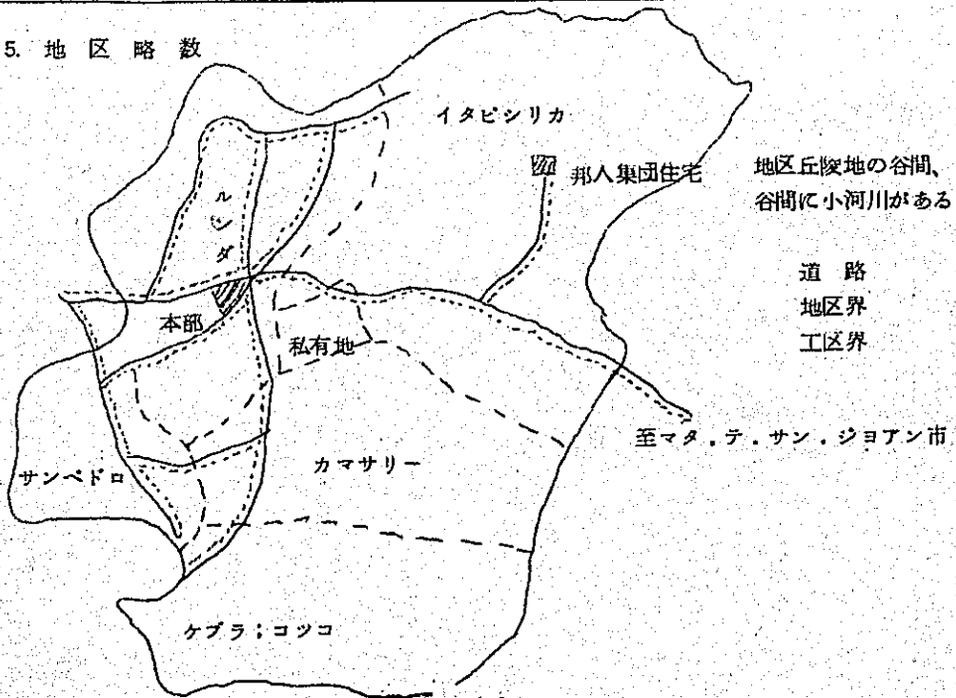
3. 営農計画

主作物	短期作物 蔬菜、米 永年作物 柑橘、カカオ、タバコ、パイナップル 丁字
営農のすすめ方	早期安定を計るため永年作物を早期に植栽することが近道であり、その収穫ま までの間短期作物にあわせて養畜を取り入れることが望ましい。

4. 特記事項及び問題点

ドミニカよりの転住者も含めて比較的営農成績が良く安定している。
土地代支払に融資を望む声があり善処する必要あり

5. 地区略図



地区名	ファンシヤル移住地
移住形態	自営開拓農(事業団)
受入世話機関	リオ・デ・ジャネイロ

1. 地区概要

自 然 的 条 件	位 置	リオ・デ・ジャネイロ州 カシヨエイラ郡 ジャブイバ
	地 形	標高低地30m 丘地80~90m 地区の西北及び東北境界線にやや高い峰がある以外は約50~60mの小丘が全域に散在しその間を小川が流れ低地を形成している。
	地 質・土 壤	丘地は花崗岩系を母岩とする壤土ないし砂壤土 低地は沖積性で壤土・砂壤土
	植 生・林 相	地区内大部分は再生林でわずかに高地峰の部分原始林を残し低地には湿水性草木の草地がある。
	気 候	最高平均 28.3℃ 最低平均 18.0℃ 降雨量 1,200mm

社 会 的 条 件	交 通	カシヨエラ・デ・マカク市までは11km
	市 場	消費都市リオを対象としているので今のところ販売に支障を来すおそれはない
	医療・教育施設	地区内に小学校があり、カシヨエラ市には中学校がある。 カシヨエラ市には病院があり、医療施設は完備し手術も可能
	そ の 他	

2. 入植計画(状況)

入植戸数	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	計	定着戸数
										9	36	1		
総面積	1,015ha													
ロッテ面積	平均 11.3ha													
土地条件	474,400円~1,674,000円													
支払条件	一括払及び分割払													

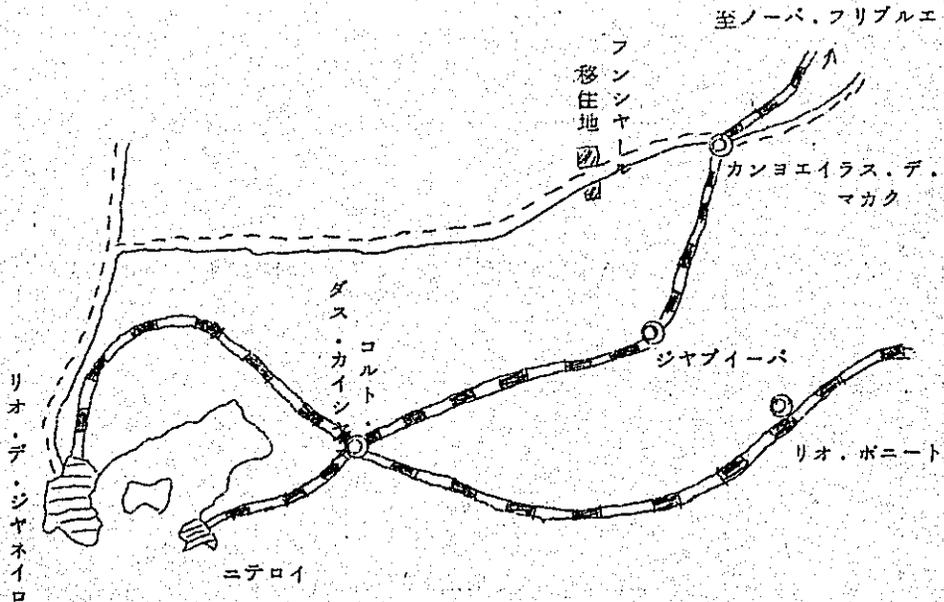
3. 営農計画

主作物	養鶏、蔬菜、永年作物としてはマラクジャ、バナナ
営農のすすめ方	入植初期の段階で伐開、家屋、鶏舎の建設后ひなの導入を行いそのかたわら農作物の植栽を実施する。養鶏を主体とし永年作物として果樹を植付ける。

4. 特記事項及び問題点

現在入植あつせん中 39年道路補修、排水路工事が行われている。

5. 地区略図



南 伯

地 区 名	ジャカレー移住地
移 住 形 態	自営開拓農（事業団）
受入世話機関	サンパウロ支部

1. 地 区 概 要

自 然 的 条 件	位 置	ジャカレー市の西北方5 km
	地 形	地区の北面東南河側に40～130 mの丘陵がある。中央部は低地でバラテイ河が流れている。
	地 質・土 質	丘陵地は花崗岩系の砂礫土、壤土が主で低平地は沖積性の植壤土
	植 生・林 相	丘陵地は主として草原、再生林で放牧地として利用されており低地は水田である。
気 候	年平均気温 18℃ 最高 33.1℃ 最低 1.5℃ 雨量年間 1,150 mm	

社 会 的 条 件	交 通	地区内に鉄道が通っている。 サンパウロ市までは67 km トラックで2時間弱である。
	市 場	サンパウロ市
	医療、教育施設	ジャカレー市には病院 中高等学校の教育施設がある。
	そ の 他	ジャカレー市にユチア産組の出張所、倉庫がある。

2. 入植計画(状況)

入植戸数	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	計	定着戸数
										3	32	8		

(ドミニカ再転住を含む)

総面積	613ha
ロッテ面積	6.7ha
土地条件	一括払 86万4千円
支払条件	分割払の場合は頭金30万円 三年々賦

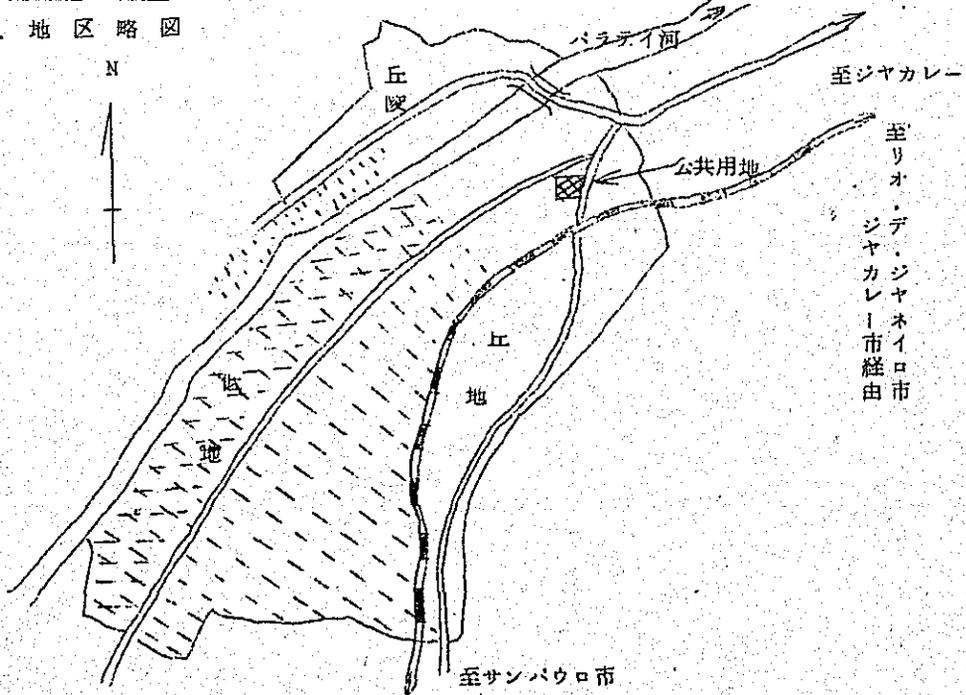
3. 営農計画

主作物	米作、蔬菜、果樹を主体とする。
営農のすすめ方	当初落花生、陸稲、野菜等を栽培し、一方永年作物を早急に植えつけ、養鶏を取り入れて、経営の安定拡大を図る。

4. 特記事項及び問題点

現在入植あつせん中

5. 地区略図



地区名	桜耕地
移住形態	自営開拓農
受入世話機関	サンパウロ支部

1. 地区概要

自然的条件	位置	23° 20' S 46° 05' W
	地域	標高600～650m緩い起伏をなす丘陵地で小川、谷川、湧水等豊富である。
	地質、土壌	壤土
	植生、林相	再生林を含む草原地帯
気候	夏期 晴天日中38℃ 夜間 10℃ 降雨量 1,500mm 冬期 " 20℃ " 2℃	

社会的条件	交通	グワラレーマ市へ6Km ジャカレー市へ12Km モジダスクレーゼス市へ30Km 各市へバスの便がある サンパウロ市へは57Km
	市場	サンパウロ市
	医療、教育施設	小学校が地区内にある。中学校はグワラレーマ市に通学する グワラレーマ市には州立病院がある。
	その他	

2. 入植計画 (状況)

入植戸数	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	計	定着戸数
												7		
総面積	200ha													
ロッテ面積	5ha													
土地条件	A級ロッテ 一括払 52万円 B級ロッテ 一括払 48万円 分割払 頭金31万2千円 分割払 頭金28万8千円													
支払条件	分割払の場合残額を1年以内に支払う													

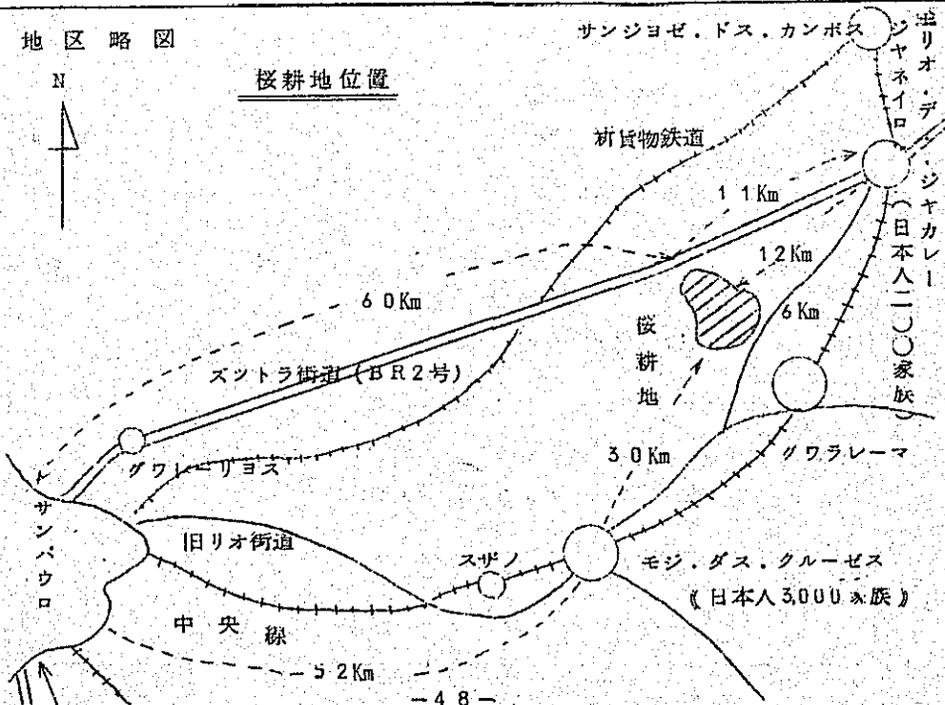
3. 営農計画

主作物	短期作物 トマト、玉蜀黍、ササゲ、チンヤ 永年作物 柑橘
営農のすすめ方	都市近郊の恵まれた立地条件を生かして、生鮮食料品の生産販売を主とする。 養鶏を並行せしめて経営の安定を図ることが望ましい。

4. 特記事項及び問題点

当耕地は足立小平治代が、独力で35年2月開設を意図したのに始まる。

5. 地区略図



地区名	グラタバラ移民地
移住形態	自営開拓農(一事業団)
受入世話機関	

1. 地区概要

自然的条件	位置	サンパウロ市の北西部 265 Km
	地 域	地区の57%は大波状形丘陵地、43%はモジグアス河の低地である。 標高500~570 m
	地質、土壌	丘地は輝緑岩と砂岩の風化土壌よりなるテーラ、ロシヤ、ミストラータで赤色を呈する。低地は黒色の沖積土で腐植に富む、土層は深い。
	植生、林相	丘地の一部は小灌木林又は雑木林他は放牧地で牧草が生育している。低地はモジグアス河に沿って原始林が帯状に密生している。
	気 候	年平均 21.8℃ 最高 23.6℃ 最低 18.4℃ 年降水量 950mm

社会的条件	交 通	サンパウロ市へは地区近傍のグラタバラ駅より鉄道で7時間自動車では5時間を要する。リベロンプレット市は45 Kmの距離にある。
	市 場	リベロンプレット市、サンパウロ市を対象とする。
	医療、教育施設	学校、診療所、販売所、倉庫等が完備されている。 リベロンプレット市には大学、病院がある。
	そ の 他	コチア産組の出張所がある。

2. 入植計画(状況)

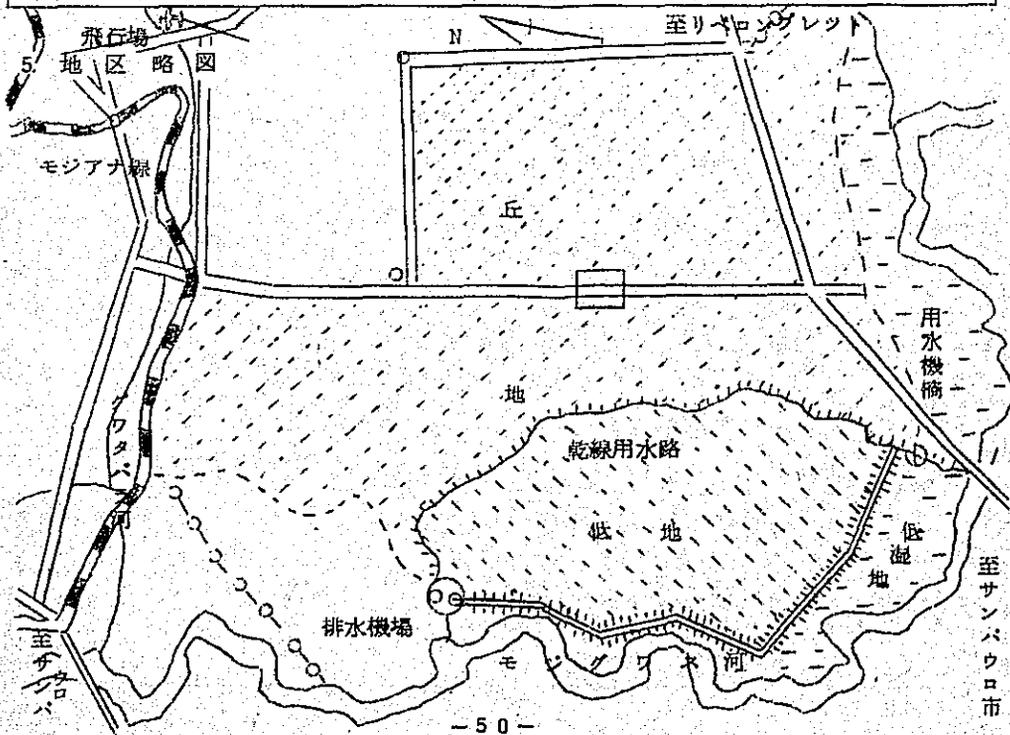
入植戸数	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	計	定着戸数
										27	43	26	96	
総面積	7,300ha													
ロツテ面積	12.5ha													
土地条件	水利施設共有権持分とも 1,492,000円													
支払条件	68万円を日本において一括払、残額は2年据置20年々賦													

3. 営農計画

主作物	米作、馬鈴薯、永年作物は柑橘
営農のすすめ方	低地の利用は雨期は灌水して稲作のみをやり乾期は畑地灌漑を行つてトマト $\frac{1}{4}$ ha 馬鈴薯1ha 緑肥 $\frac{3}{4}$ ha 玉葱1haを作付する。 土地改良工事によつて低地から安定した収穫を上げつつ丘地柑橘の成熟を待ち又自給飼料を主に畜産を充実してゆく計画

4. 特記事項及び問題点

山形、茨城、長野、岡山、佐賀の各県より44戸あて、島根、山口の各県より21戸あてとし、この7県下の応募者のみとする。



地区名	ビニヤール移住地
移住形態	自営開拓農、事業団移住地
受入世話機関	

1. 地区概要

自然的条件	位置	サンパウロ市より南方、150 Kmのビラール・ド・スール市近く
	地形	標高700 m前後全体的に大きな波状をなしており傾斜6°～7°
	地質・土壌	頁岩の風化物を母材とした壤土乃至植壤土を主体とし地味としては中庸、一部の低地では地下水高く腐植に富んだ暗黒色の砂壤土にして30 cm以下に暗青色の粘質層のあるところもある。
	植生・林相	地区の $\frac{2}{5}$ は再生林状の林地、 $\frac{1}{5}$ は灌木林、 $\frac{2}{5}$ は畑地及び放牧地となつている。
	気候	年平均気温18.5℃サンパウロ州としてはかなり冷涼な地帯に属する。 年降雨量 1,200～1,300 mm

社会的条件	交通	1日4回サンパウロ市にゆくバスが運行しており5時間程で到着する ビラールドスール市まで16 Km サンミケル・アルカンジヨ市へは18 Km
	市場	主な市場はサンパウロである。
	医療・教育施設	地区内に小学校があり、中学校はビラール・ド・スール市及びサンミゲルアルカンジヨ市にある。病院はビラールドスール市に2つある
	その他	

2. 入植計画(状況)

入植戸数	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	計	定着戸数
												2		20
総面積	760ha													
ロッテ面積	12ha													
土地条件	一括払 65万円													
支払条件	分割払の場合は13万円を払込み残金は3年据置3年々賦となる。													

3. 営農計画

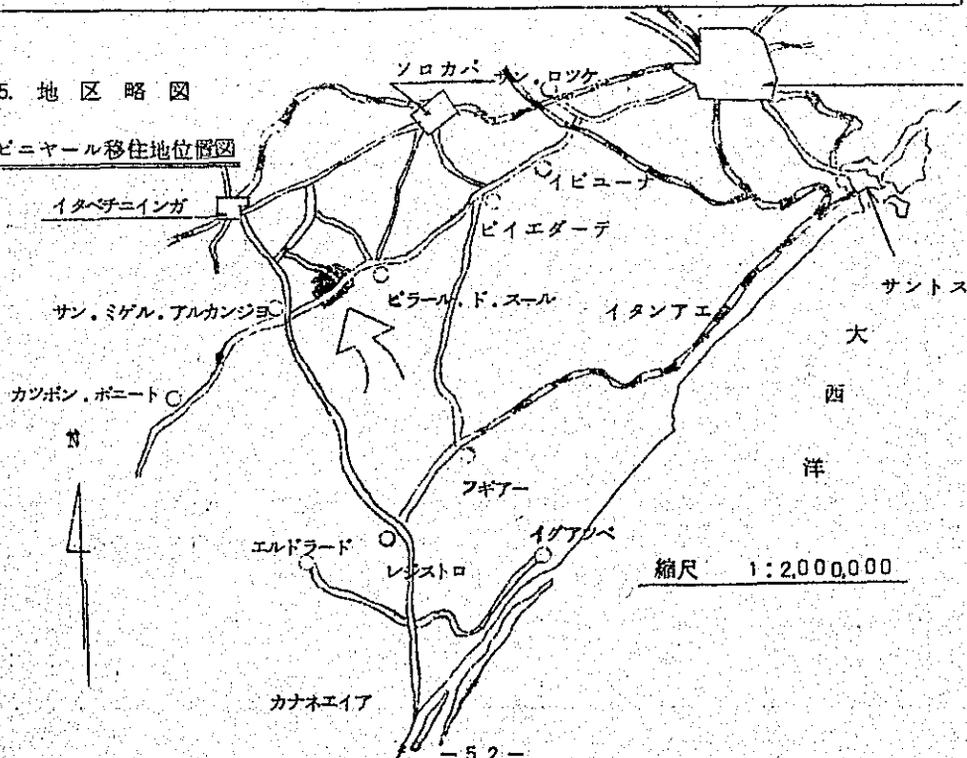
主作物	短期作物 馬鈴薯、甘藷、玉 黍、 永年作物 桃、柿、ブドウ
営農のすすめ方	準都市近郊農業地として、トマト、ピーマン等の野菜栽培、ブドウ、桃、柿等の果樹栽培、或はこれらに養鶏を組合わせた有畜果樹園芸の経営を行う

4. 特記事項及び問題点

現在入植あつせん中であり、全国を対象としている。

5. 地区略図

ビニヤール移住地位置図



地 区 名	クルバイ移住地
移 住 形 態	自営開拓農（和歌山不動産）
受入世話機関	サンパウロ支部

1. 地 区 概 要

自 然 的 条 件	位 置	ドラードス東南 140Km
	地 域	標高400m 高差50m 四方が谷で囲まれている。 中央部が高く幾分かの起伏を経て谷に向つて落込んでいる。
	地 質、土 壤	ラーラミスタに近い
	植 生、林 相	
	気 候	

社 会 的 条 件	交 通	
	市 場	
	市 場	
	医療、教育施設	
	そ の 他	

2. 入植計画(状況)

入植戸数	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	計	定着戸数
													57	21
総面積	1,764アルケール													
ロッテ面積	10アルケール													
土地条件	80,000クルゼイロス													
支払条件														

3. 営農計画

主作物	
営農のすすめ方	カフェーは霜害にあり現在綿を主体としている

4. 特記事項及び問題点

--

5. 地区略図

地 区 名	ドラーダス移住地
移 住 形 態	自営開拓農 (連邦政府)
受入世話機関	サンパウロ支部

1. 地区概要

自 然 的 条 件	位 置	22° 22' S 54° 25' W
	地 形	地形はゆるやかな波状形を呈し、起伏は40mを超えることはない。
	地 質・土 壤	テラロンヤ地帯に属し、地味は肥沃であるが、地形により砂質壤土が点在する。
	植 生・林 相	森林はよく繁茂し、巨木の密生している良好な林相である。
	気 候	雨期最低気温 22℃ 乾期最低気温 6~7℃ 年間雨期 1,329mm

社 会 的 条 件	交 通	ドラーダス市まで 70Km カンボグランデ市より 約110Km
	市 場	カンボグランデ市
	医療・教育施設	薬局1. 病院1. 小学校8.
	そ の 他	植民事務所 製材所 鉄工所 発電所等がある。

2. 入植計画(状況)

入植戸数	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	計	定着戸数
		74	13		4	3								
総面積	30万ha													
ロッテ面積	30ha													
土地条件	無償													
支払条件														

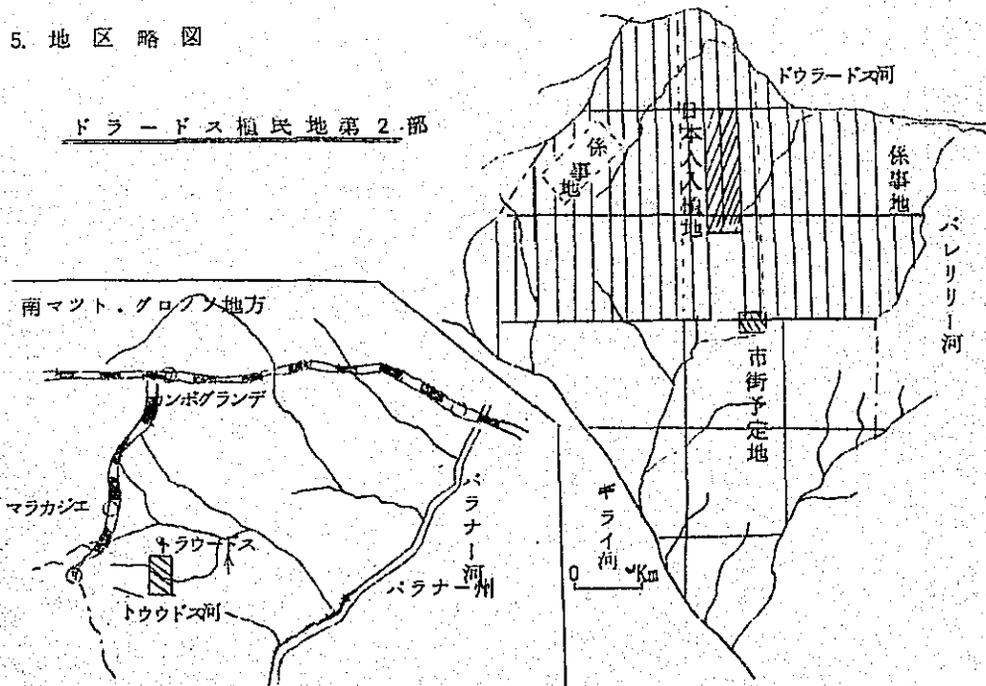
3. 営農計画

主作物	永年作物 コーヒー	短期作物 とりもろこし、フェイジョン、大豆、陸稻
営農のすすめ方	コーヒーの株間を利用して、米、とりもろこし、フェイジョンを栽培する	

4. 特記事項及び問題点

教育及び道路に問題点あり

5. 地区略図



地区名	オウリーニョス移住地
移住形態	自管開拓農
受入世話機関	サンパウロ支部

1. 地区概要

自 然 的 条 件	位 置	サンパウロ州オウリーニョス市南方7 Km
	地 形	標高460～470 m 緩傾斜の波状地で高台緩傾斜地、低地を含む
	地質・土壌	テラーロシヤに微細砂の混じたものであり、若干粘着力が小さいが保水力はすぐれておりきわめて肥沃である。
	植生・林相	移住地の一部に原始林地帯を減しているが大半は耕されコーヒー雑作甘藷牧場等として利用
	気 候	年平均 20℃ 雨量 1,215 mm

社 会 的 条 件	交 通	サンパウロ市へはオウリーニョス市から汽車、バス、飛行機が定期に運行されている。 国道380 Km
	市 場	オウリーニョス市、サンパウロ市
	医療・教育施設	オウリーニョス市は教育、医療設備が完備している。
	そ の 他	

2. 入植計画(状況)

入植戸数	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	計	定着戸数
										16		1	17	
総面積	238.75ha													
ロッテ面積	10ha													
土地条件	652,000クルセイロス													
支払条件	一括払													

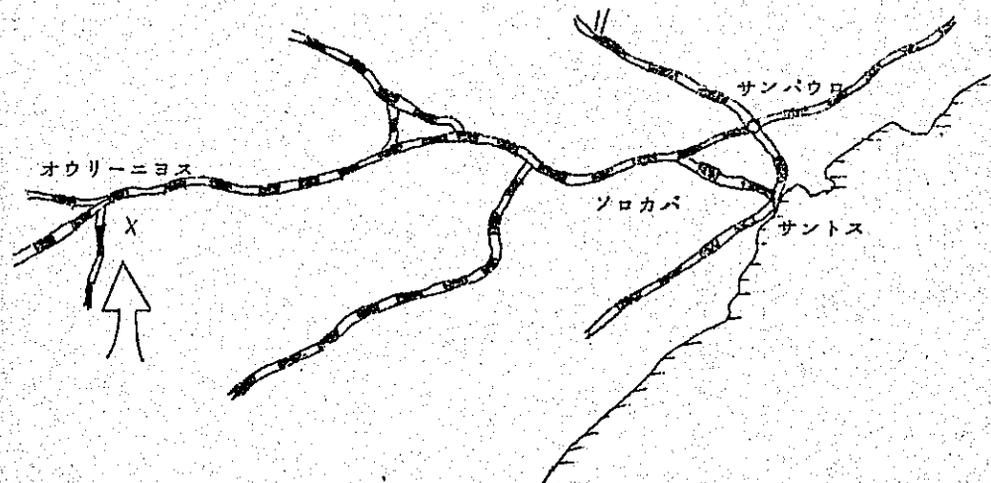
3. 営農計画

主作物	短期作物 トウモロコシ、小麦、落花生、綿、永年作物 コーヒー、柑橘、果樹
営農のすすめ方	コーヒーのほか、とうもろこしを表作に小麦を裏作とし、このほか、養豚、養鶏を取入れた果物経営を行う。

4. 特記事項及び問題点

オウリーニョス方式いわゆる現地組合の創設した移住地に日本より移住者を導入したことに意義がある。
養蚕協会枠にて送出した

5. 地区略図



地区名	バルゼーアレグレ移住地
移住形態	自営開拓(事業団)
受入世話機関	JAMIOサンパウロ支部

1. 地区概要

自 然 的 条 件	位 置	20° 00 S 55° 00 W
	地 形	大体平坦地又は極めてゆるやかな傾斜の所である。
	地 質、土 壤	地質年代は割に古い。土質は砂壤土、砂質土、テーラ。マサツベところによりテーラ、ロンジャ地帯がある。
	植 生、林 相	奥地草原帯に属し、ところどころに原始林地帯、再生林地帯がある。
	気 候	平均気温 23.6℃、最高平均30.9℃、最低平均 18.1℃ 年間雨量 1,537.7 ^{mm} 雨期10月～翌3月、乾期4月～9月

社 会 的 条 件	交 通	ノロエテス線鉄道が移住地の中央を東西に走りサンパウロ市(1,296Km)には3時間、ヤンボ、グランデ市には自動車にて1時間の行程である。
	市 場	カンボ、グランデ市(人口8万)南マツト、グロツソにおける農産物の集散地、米、雑穀、コーヒー、畜産物が取引される。
	医療、教育施設	移住地内に診療所 1、 小学校 1。
	そ の 他	

2. 入植計画(状況)

入植戸数	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	計	定着戸数
								14	31	6	1		52	34
総面積	36,363ha													
ロッテ面積	25ha													
土地条件	ヘッタール当り24,000円~28,000円に別けられている。													
支払条件	分割払の場合 頭金の外残額は3年据置5年々賦である。													

3. 営農計画

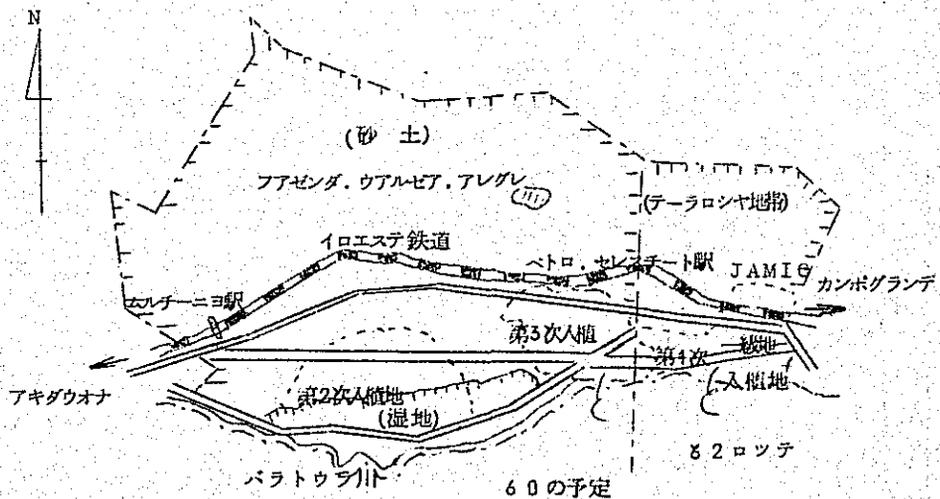
主作物	陸稲、バナナ、とりもろこし、フェジヨン、マンジョカ
営農のすすめ方	現在、トウモロコシ、綿花、陸稲等に養鶏を取り入れた営農を行っている。

4. 特記事項及び問題点

入植後2~3年退耕者があとをたなかつた。

未利用地の取扱、境界線の問題

5. 地区略図



アルゼンチン国

地区名	ガルアベー移住地
移住形態	自営開拓農(専業団)
受入世話機関	ブエノスアイレス支部

1. 地区概要

自然的条件	位置	26°50' S 54°50' W
	地形	標高250~300mアルトパラナ河畔にあり、河に向つてゆるく傾斜している波状丘陵地
	地質・土壌	母岩は玄武岩、土壌はその風化土壌たるテラロンヤで地味良、河畔又は一部に砂質及び砂礫地あり
	植生・林相	原生林、有用材木殆んどなし、入植者用建築材あり
	気候	両期、乾期の別は判然としなないが、年雨量1,500mm~2,000mm 最高平均気温37°C、最低平均気温-4°C

社会的条件	交通	国道12号沿に170Kmにて州都ボサーダス市(人口8万余)又120Kmにてオペラ市(人口2万余)がある。国道12号線はイグアスへの観光道路で、地区の接する処にはバス・ストップがある。ボサーダス市はブエノスからの鉄道のターミナルと、又船の利用も出来る。
	市場	ボサーダス市: パラナ河をへだてて、エンカルナシオン市に対するミシオネス州の州都、鉄道でブエノスより34時間本地区の中間市場で、主な市場はブエノスアイレス市である。 プエルトリコ町: (人口約3,000人) 地区南方国道12号線上にあり、附近の物資の集散地
	医療、教育施設	診療所は地区南端国道12号線の所にあり、入院の為にはボサーダス市に行く必要あり。小学校は州立58小学校が入植地事業所近くに、州立86小学校が地区中央部(ロクテ62)にあり。中学校はプエルトリコ町に在る
	その他	入植地事業所と仮収容所あり

2. 入植計画 (状況)

入植戸数	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	計	定着戸数
								26	5	13	32	278	76	
総面積	約3,000ha													
ロッテ面積	1ロッテ平均30ha													
土地価格	①一括払いの場合は、521,300円 ②分割払いの場合664,300円													
支払条件	①一括払いの場合は、全額を渡航前に日本国内で支払い。但し、地券は現地で引渡される。 ②分割払いの場合は、頭金10万円、残金は5年据置、3ヶ年均等年賦払いで全額支払い後地券が引渡される。													

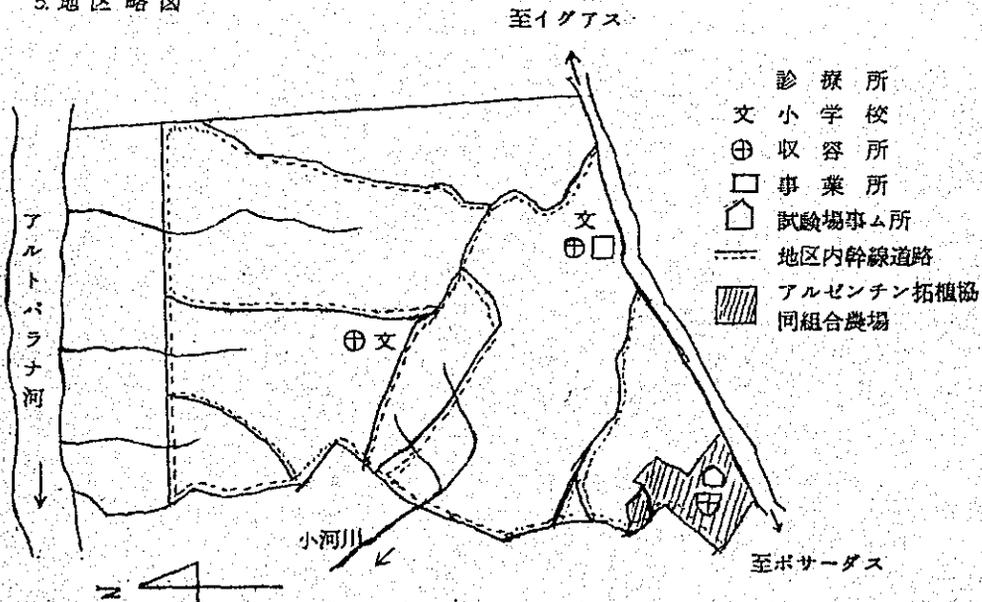
3. 営農計画

主作物	煙草、マンジョカ、茶、油桐、パラナ松、ユーカリ、柑きつ類
営農のすすめ方	自家食糧および当初の換金作物として煙草、マンジョカ、とうもろこし、豆類等を作り徐々に永年作物の茶、柑きつ類、油桐、およびパラナ松、ユーカリ等の作付けをし、順次永年作物作付面積を増す。

4. 特記事項及び問題点

短期作は利潤の高い煙草が植え付けられ、永年作としての植林は近傍に製材工場、パルプ工場もありその市場性は心配がない。既入植者は家畜の導入も徐々にこなしているが、将来畜産導入にも力を注ぐべきであろう。

5. 地区略図



地区名	アンデス移住地
移住形態	自営開拓農(事業団)
受入世話機関	ブエノスアイレス支部

1. 地区概要

自然的条件	位置	34°50' S 67°50' W
	地形	標高約600m 所々に凹凸あるが、概して東南に向つてゆるやかな傾斜をなす平坦地である。
	地質、土壌	植叢土を含んだ砂質土で、砂は粒子頗る細かく粘土分も含んでいる。
	植生、林相	耐旱性の強い約40㎝から70㎝位の灌木類が密生しており巨木はない。
	気候	1年を通じ最も暑い時期が1月で、最高平均気温24.6度、最も寒い日は7月で最低平均気温は8.6度となつている。7~8月頃には1~2回雪が降ることもある。

社会的条件	交通	サン、ラフアエル市(約90軒) ブエノスアイレス市まで週2回飛行便(約3時間) 移住地より14軒 ヘネラル、アルベアル市を起点として、ブエノスアイレス市、メンドサ市、サン、ラフアエル市に至る鉄道及びアスファルト舗装がある。 メンドサ市へは毎日2回汽車便(所要時間約5時間半) ブエノス市へは週4回(急行で17時間)の汽車便のほか、両市へ長距離バスを運行している。
	市場	ヘネラルアルベアル市 14軒人口3万 ブエノスアイレス市首都 880軒 メンドサ市(州都) 300軒 サンラフアエル市 90軒人口10万人
	医療、教育施設	ハイメブラッツ町(約5軒) 病院、ヘネラルアルベアル市に総合病院のほか十数軒の開業医あり 小学校が移住地2軒にあり、外にハイメブラッツ町に大きな小学校あり、ヘネラルアルベアル市には、小、中学校、農業専門学校、看護婦養成学校がある。
	その他	

2. 入植計画 (状況)

入植戸数	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	計	定着戸数
												11	11	5
総面積	約1,300ha													
ロッテ面積	1ロッテ平均10ha													
土地価格	約120万円													
支払条件	分括払の場合 頭金1ロッテ24万円渡航前に支払い、残金は円建とし5年据置以後4ヶ年均等年賦にて支払う。													

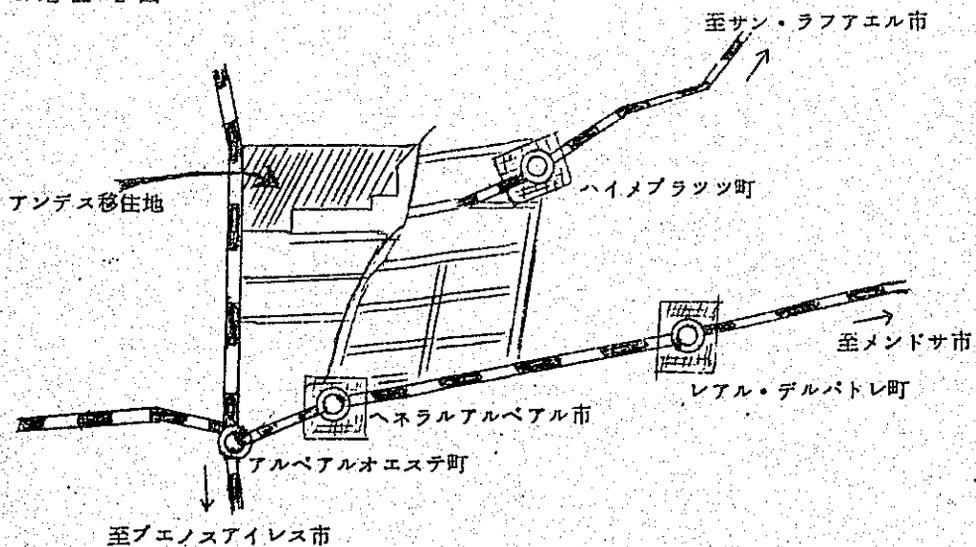
3. 営農計画

主作物	ブドウ、桃、梨等の果樹とトマト、ピーマン、たまねぎ等
営農のすすめ方	入植後、直ちに住宅を建築し、耕地内の灌漑水路を整備し、永年作物としてブドウ、桃、梨、スモモ等を植え、短期作物としてトマト、ピーマン等の野菜及び飼料作物を栽培する。かくに完成年次は永年作物を主体とする養蕃加味の経営を行なうことになる。なお、本地方は温帯果樹(ブドウ、モモ、ナシ等)に好適であり、ブドウの栽培面積はメンドサ州は全国の7.0%占めている。

4. 特記事項及び問題点

この地帯の農業は、日本内地におけるそれと全く異なり、土地利用の前に如何に水の合理的利用を基本としているかの現状を注意して着手しなければならない灌漑農業であり、この経験を有する者には、最も好適な移住地ということが出来る。
又霜害のおそれがあるので、入植初期の段階では充分これに注意することが望ましい。

5. 地区略図



パラグアイ国

地区名	イグアス
移住形態	自営開拓農（事業団）
受入世話機関	アスンシオン支部

1. 地区概要

自然的条件	位置	アルトパラナ県ブリオネスクエ地区。アスンシオンより280Km
	地形	標高平均250m 地域の北端をイグアス河、南端近くをモンダイ河が流れており何れもパラグアイ河にそそいでいる。
	地質、土壌	緑岩を母岩とする赤色の植土。低地、湿地には黒色土壌がある。
	植生、林相	ところどころ草原を湿したりつそりたる原始林。有用木が多い。
気候		気温は夏期の平均は最高の平均が31°C～32°Cとなるが、最低の平均は9°C～10°C程度。冬期は降霜をみる。降雨は年間1,700mm程度。

社会的条件	交通	移住地内を国際道路が貫通しており、ブラジル向の国際大橋の完成によりブラジルとの交流が期待されている。
	市場	アスンシオン市、その他
	医療、教育施設	診療所1、小学校1、
	その他	現在あつせん促進中

2. 入植計画 (状況)

入植戸数	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	計	定着戸数
										14		9	23	22
総面積	87,763 ha													
ロッテ面積	30 ha													
土地価格	400,000円 (一括払)													
支払条件	分割払 頭金80,000円4年据置、5年年賦													

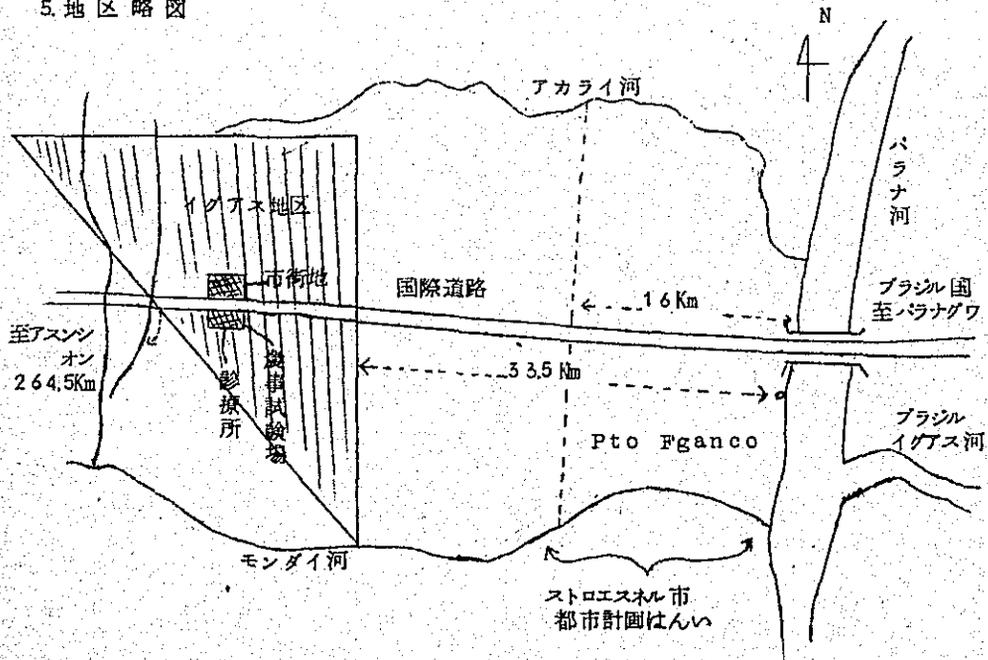
3. 営業計画

主作物	油桐。柑橘。牧畜。
営農のすすめ方	他地区に準じる。

4. 特記事項及び問題点

<p>チャベス地区と同じ。</p>

5. 地区略図



地区名	チャベス
移住形態	自営開拓農（事業団）
受入世話機関	アスシオン支部

1. 地区概要

自然的条件	位置	イタプア県エンカルナシオン市より北方16Kmにて植民地入口
	地形	パラナ河沿いの500~1000mの丘陵地、地形は波状形の台地で、植民地内の小河川は台地より可成り掘り下げられて低く森林に覆われている。
	地質、土質	地質は輝緑岩の凡化岩を母材とし、土質はテーラ、ロンヤと呼ばれる肥沃なものである。
	植生、林相	うつそうたる原始林であつたが、現在は全く開発されて農耕地となつている。
気候	年間平均22°C 1月：16°C~38.5°C 平均28.3°C 8月：02°C~30.5°C 平均14.5°C 降霜あり（5月~9月）暴風7回あり：——（1958年） 年間雨量700~1,700mm 6月~9月に雨少なく1月~5月に多い。亜熱帯性で乾期と雨期との明瞭な区別がない。	

社会的条件	交通	アスシオン市までバス運行、1日3日 所要時間30分
	市場 医療、教育施設	消費市場：主としてエンカルナシオン市、その他ブエノスアイレス 小学校2校
	その他	チャベス農協を結成、イタプア県他地区組合と共にイタプア県農協連を結成活動している。

2. 入植計画（状況）

入植戸数	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	計	定着戸数
			19	56			1	1	1				78	110
総面積	6万8千ha（チャベス国有植民地）													
ロンテ面積	20ha													
土地価格	} 満植													
支払条件														

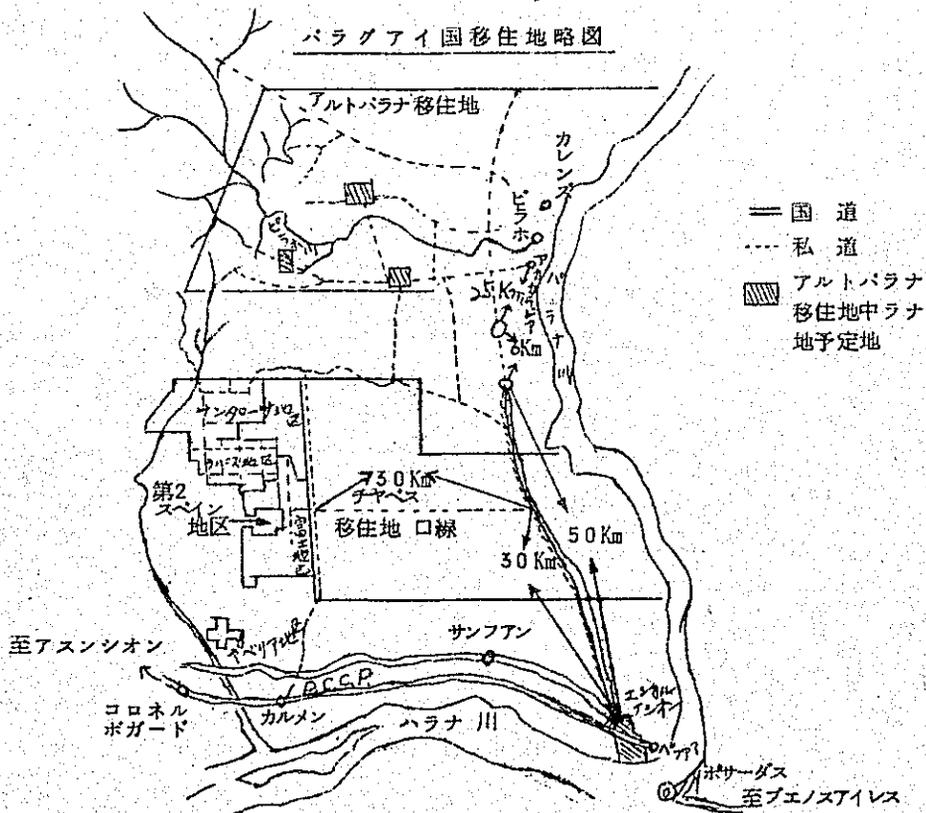
3. 営農計画

主作物	短期作物：米、棉、落花生、小麦、マيس（大豆）馬れいしよ、ダバコ、マンジョカ 永年作物：油桐、マテ茶、ボメロ、ブドウ
営農のすすめ方	国内市場が限られているため、入植当初は自給自足の体制をとり、逐次永年作物の家畜入をはかり国際市場を相手とする。

4. 特記事項及び問題点

国内市場の狭と生産物の販売市場の確保

5. 地区略図



地区名	フラム
移住形態	自営開拓農(事業団)
受入世話機関	アスンシオン支部

1. 地区概要

自然的条件	位置	} チヤベス地区に同じ
	地形	
	地質、土壌	
	植生、林相	
	気候	

社会的条件	交通	} チヤベス地区に係り同じ
	市場	
	医療、教育施設	診療所1、小学校6、中学校1
	その他	富士農協、サンタ、ロサ農協、ラ・パス、農協のり単協よりよる。

2. 入植計画（状況）

入植戸数	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	計	定着戸数
					81	158	86	4	26				355	477
総面積	16.057 ha													
ロッテ面積	2.5 ha													
土地価格	一括払133,000円分割払い頭金72,000円4ヶ年据置4年年賦													
支払条件														

3. 営農計画

主作物	} チャベス地区に同じ
営農のすすめ方	

4. 特記事項及び問題点

チャベス地区に同じ。バラグアイ移住地共通。

5. 地区略図

地区名	アルトパラナ
移住形態	自営開拓農(事業団)
受入世話機関	アスンシオン支部

1. 地区概要

自然条件	位置	イタプア県の首都エンカルナシオンより地区の入口まで80km
	地形	標高150~200mの波状形の緩傾斜の地帯である。小河川あり
	地質、土壌	母岩は輝緑岩として土壌はテラ、ロシヤとよばれる赤い肥沃なも酸度は中性
	植生、林相	原始林に露わられたところである。有用材が多い。草原は極めて少ない
気候	年間平均	21~23℃最高30~32*(1月)最低10℃(9月)降雪あり。
	年間雨量	700~1,700mm 6月~9月雨少なく、1月~5月に多い。亜熱帯性で乾期と雨期との明瞭な区別がない。

社会的条件	交通	エンカルナシオン市まで80kmバス1日4回。当団の建設した道路良好。
	市場	チャベス地区に同じ。
	医療、教育施設	診療所1、小学校4
	その他	現在入植あつせん促進中

2. 入植計画(状況)

入植戸数	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	計	定着戸数
									150	124	26	73	507	280
総面積	83,580 ha													
ロッテ面積	30 ha													
土地価格	350,000円(一括払)													
支払条件	分割払い頭金70,000円 4年据置5年年賦													

3. 営農計画

主作物	チャベス地区に同じ
営農のすすめ方	"

4. 特記事項及び問題点

チャベス地区に同じ

5. 地区略図

ボリビア国

地区名	サンフアン
移住形態	自営開拓農(事業団)
受入世話機関	サンタ・クルス支部

1. 地区概要

自然的条件	位置	17°20' S 63°50' W
	地形	大部分は平坦で小川により浅谷が南東から北西に走っている。
	地質、土壌	沖積留台地で、砂土、壤土が交錯、PH. 4.5~5.6
	植生、林相	モタク、アルメンドリーリヨ、マラ、オーチヨ、タヒーボ等の熱帯樹木が繁茂し、沼沢地を除き林相は密である。
気候	雨期(12月~3月) 28°C、乾期(5月~9月) 21°C 年間降雨量 2,200%~2,300%	

社会的条件	交通	サンタ・クルス市より移住地入口まで約125Kmの国道が通っており、移住地内の道路は一応全ロットに通じているが、排水路工事が未完成である。サンタ・クルス市より移住地中心まで1日2往復のバス便がある。
	市場	サンタ・クルス市(6万人)に130Km、コチャパーバ市(10万人) サンタ・クルス市より500Km、ラパス市(37万人) サンタ・クルス市より1,000Kmの距離にあり、産米の主たる販売市場となつている。
	医療、教育施設	移住地中心に診療所があり、日本人医師が駐在している。下級小学校6、上級小学校1、中学校1、がある。
	その他	日・ボ移住協定によつてボ国政府の協力を得ている。

2. 入植計画(状況)

入植戸数	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	計	定着戸数
			7	87	3	377	327	14	54	309	3	81	1,649	285戸 1,560
総面積	35.288ヘクタレス													
ロット面積	1戸~50ヘクタレス													
土地価格	無償													
支払条件														

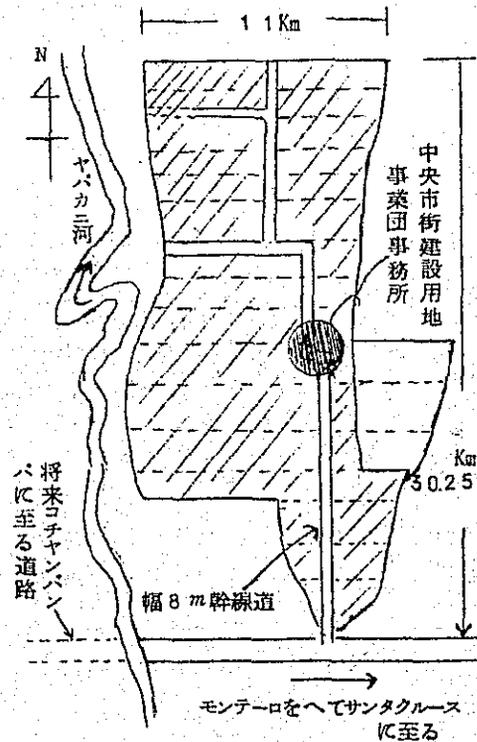
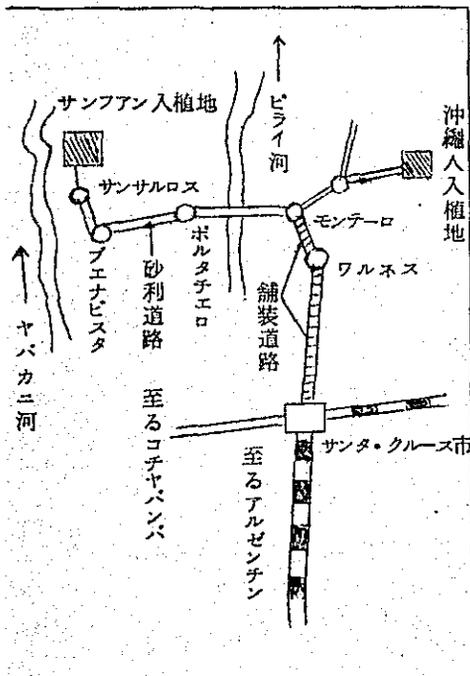
3. 営農計画

主 作 物	粟稲、大豆、カカオ、柑橘
営農のすすめ方	当面 金作物として米作に依存し、将来蓄産をとり入れる計画がある。 カカオ、柑橘は普及の段階である。

4. 特記事項及び問題点

1. 道路、従来道路予算が本格的に予算化されていなかったため、排水路及び橋梁工事が未完成となっている。
2. 営農、米作営農のため、営農上多くの問題があり、現在このために対策が考えられている。

5. 地区略図



ドミニカ国

地区名	ダハボン
移住形態	自営開拓農
受入世話機関	サント・ドミンゴ支部

1. 地区概要

自然的条件	位置	リベルタドル県ラ・ビヒア
	地形	標高50m以下、一部小丘を除き概ね平坦であるが、地区東・西側に河があり、西側のマサクレ河沿いは浸水をうけ易い、低地となっている。
	地質・土壌	土壌は酸性暗色の植生土であるが、殊に河沿い低地帯は肥沃である。
	植生・林相	浸水地帯は椰子その他巨木が密生し、その他の部分は喬木、かん木の交った森林となっている。
	気候	年平均25.9℃、最高(8月)28.4℃、最低(1月)22.0℃である。夏季は相当に暑い、夜は比較的涼しく凌ぎ易い。年間1,200~1,300mmで、1月~3月は乾季で降雨量は極端に少い。

社会的条件	交通	ダハボン市(人口約9,000人)、地区南方9km道路にあり、本地区より、アスファルト道により連絡、ダハボン~モンテクリステイ間1日2回のバス連絡あり、本地区はその道路より2.5km西よりに在る。モンテクリステイ市(人口約12,000人)地区北方27.5kmにありアスファルト道により連絡
	市場	ダハボン市は県庁所在地で病院、警察署、国境警備隊、郵便局等ありサンチャゴ市(人口約16万人)地区西方約150kmトラックにより農産物輸送、地区の主な市場、ベビーリヨ、サルセード市(人口約4,000人)地区北方22kmに在りユナイテッド・フルーツのパナナ・トマト積出港で1万屯級の船舶の入港は可能である。移住者はユナイテッド・フルーツと契約して、パナナ・トマトをアメリカに積み出す。
	医療・教育施設	地区内診療所あり(ダハボン市に日本人医師が国立病院に勤務し、週2.3回来診)地区内に分教場(小学校)あり、中学校はダハボン市にあり
	その他	入植後8年目に地権獲得の予定

2. 入植計画(状況)

入植戸数	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	計	定着戸数
					30	28							58	33
総面積	1,200 ha													
ロッテ面積	各戸平均													
土地価格) ド国政府の供与による													
支払条件														

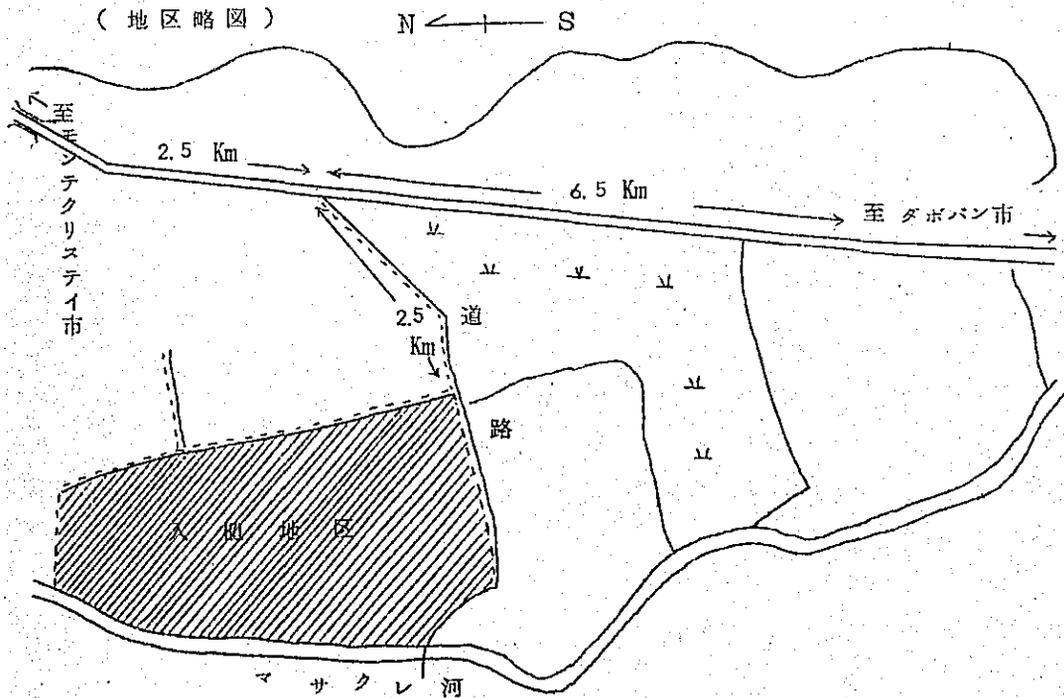
3. 営農計画

主作物	水稲 その他蔬菜類
営農のすすめ方	安定作物である水稲を主とし機械化を逐次おし進め、一方借地等により土地拡大をはかる。

4. 特記事項及び問題点

イ、地権の確保
ロ、土地拡大と水利に制限があること。

5. 地図略図



地区名	コンスタンサ
移住形態	自営開拓農
受入世話機関	サント・ドミンゴ支部

1. 地区概要

自然的条件	位置	ラベガ県コンスタンサ
	地形	標高1,200m、国土のほぼ中央の山岳地帯の盆地に在り、地形一部を除き平坦である
	地質・土壌	土壌は黒色又は黒褐色の植土で腐植にとみ、酸性である。表土50cm前後である。
	植生・林相	周辺地帯は針葉樹が繁茂しており、殊に松材は良質のものがえられる。
気候	気候冷涼で避暑地として有名で、そのかんきようは欧州を思わせるものがある。最高平均25.8℃、最低平均10.9℃ 年平均18.3℃(1月が最も寒く、8月が最もあつい。) 冬季雨量少く、夏季雨量最多である。 年平均1,060mm前後	
社会的条件	交通	コンスタンサ市(人口約11,000人)、地区はこの町外れに在りハラバコア町(人口約5,000人)地区東北方48Km、サンチャゴ市(人口約1.6万人)地方北方121Km ラベガ市(人口約1.1万人)地区東北方77Kmサントドミンゴ市(人口約2.7万人)地区南方184Km
	市場	移住地内で商人に販売するが、或いはトラックでラベガ、サンチャゴ、サントドミンゴの市場で販売する。
	医療・教育施設	町に小学校、診療所がととのつている。
	その他	入植後10年で地権獲得2地区にわかれている。ハボネサ地区とサビーナ地区

2. 入植計画(状況)

入植戸数	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	計	定着戸数
					29	1		5					35	21
総面積	約470ha													
ロッテ面積														
土地価格	ド国政府の供与による。													
支払条件														

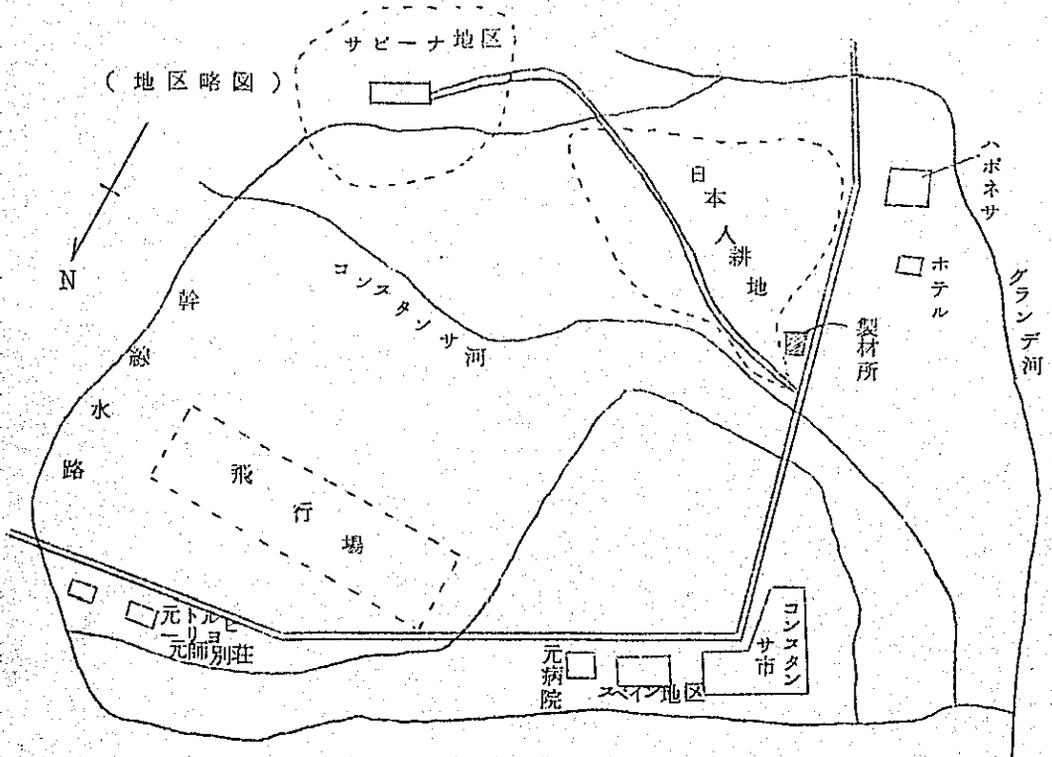
3. 営農計画

主作物	トマト、ジャガイモ、キャベツ、花その他蔬菜
営農のすすめ方	冷涼地帯である特殊性を利し、多肥集約農法による蔬菜栽培を行なう。

4. 特記事項及び問題点

イ、地権の確保
ロ、連作による土地肥沃度

5. 地図略図



地区名	ハラバコア
移住形態	自営開拓農
受入世話機関	サント・ドミンゴ支部

1. 地区概要

自然的条件	位置	ラベカ県ハラバコア
	地形	標高600m本地区はドミニカ国中央山脈からその北側に在る穀倉地帯シバオ平原に至る中間の台地に在り、地区は北方以外の三方を丘に囲まれている。
	地質・土壌	表土40~50cmで黒褐色の壤土~堆積土で酸性、処により石灰岩質の礫が多く含まれている。しかし地味一般に良い。
	植生・林相	本地区附近は20m以上の木からなる中程度の森林である。椰子類が多く、大なるは直径1mも及ぶものあり、しかし一般に30~40cm位である。草原はない。
	気候	地区南方のコンスタンサ地区より600m低いので、最底最度は約3℃高い。最高平均29.3℃、最低平均16.3℃、年平均22.8℃年平均1,456mm 年間平均しているが殊に5月が最も多い。

社会的条件	交通	国土の中央に位し、邦人コロニア中各主要都市に最も近く、交通も至便である。地区は首都サントドミンゴ市の北々西160Km(道路)、サンチャゴ市南々東60Km、ラベガ市北西29Kmの地点に在り尚地区はハラバコア町の南2Kmの町はずれに在る。
	市場	コンスタンサと同じ。
	医療・教育施設	ハラバコア地区に病院施設がある。地区内の児童はハラバコア町の小学校に通学している。(7才~14才無料である)
	その他	入植後10年後に地権獲得

2. 入植計画(状況)

入植戸数	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	計	定着戸数
							16						16	15
総面積	約900ha													
ロッテ面積														
土地価格	ド国政府の供与による。													
支払条件														

3. 営農計画

主作物	米、トマト、その他蔬菜
営農のすすめ方	安定作物である米を一定面積作付し、後は市場価格をにらみあわせながら投機的蔬菜栽培を行なう。

4. 特記事項及び問題点

イ、地権の確保
ロ、土地拡大が同地区内では殆んど不可能であること。
ハ、ド国人入植者との接触

5. 地図略図

